様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	西南学院大学
設置者名	学校法人西南学院

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間･通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
神学部	神学科	夜・通信	10	0	4	14	13	
文学部	英文学科	夜・通信	8	6	0	14	13	
	外国語学科	夜・通信	10	4	0	14	13	
外国語学部	外国語学科	夜・通信	10	0	4	14	13	
商学部	商学科	夜・通信	10	0	4	14	13	
	経営学科	夜・通信	10	0	4	14	13	
経済学部	経済学科	夜・通信	6	6	2	14	13	
	国際経済学科	夜・通信	6	6	2	14	13	
法学部	法律学科	夜・通信	8	0	6	14	13	
	国際関係法学科	夜・通信	8	0	6	14	13	
人間科学部	児童教育学科	夜・通信	10	0	4	14	13	
	社会福祉学科	夜・通信	10	0	4	14	13	
	心理学科	夜・通信	10	0	4	14	13	
国際文化学部	国際文化学科	夜・通信	10	0	4	14	13	
（備考） 文学部は、従前の教育課程に基づいて記載。外国語学部は、完成年度までの設置計画に基づいて記載。								

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

西南学院大学シラバス・講義計画　https://isaints.seinan-gu.ac.jp/syllabus/ ※「実務経験のある教員等による授業科目」の□欄をチェックして検索

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	西南学院大学
設置者名	学校法人西南学院

１．理事（役員）名簿の公表方法

学院 HP（http://www.seinan-gakuin.jp/info/yakuin.html）

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	バプテスト教会牧師	2022.4.1 ～ 2025.3.31	キリスト教主義に基づいた法人運営が行われているかを、牧師の立場から判断・助言する。
非常勤	株式会社従業員	2022.4.1 ～ 2025.3.31	学校教育・学校法人の運営に関する見識を有する立場から判断・助言する。
（備考）2022 年 6 月 1 日現在の理事一覧表 学外者である理事 7 名の内 2 名を掲載			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	西南学院大学
設置者名	学校法人西南学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）を作成し、公表していること。

（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）

Ⅰ．シラバスの作成過程

【授業計画作成ガイドライン：シラバス記入要領】

※記入項目

１．授業の到達目標
２．授業の概要
３．事前・事後学習、時間等
４．授業計画（各回の授業内容）
５．教科書・テキスト
６．参考書等
７．課題の種類・内容
８．課題に対するフィードバックの方法
９．成績評価の方法・基準
１０．使用言語
１１．履修上の注意

Ⅱ．シラバスの作成時期：毎年１２月～翌年１月頃

Ⅲ．シラバスの公表時期：毎年３月上旬

Ⅳ．参考

各学部・学科のカリキュラム一覧
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/curriculum/

授業計画書の公表方法	https://isaints.seinan-gu.ac.jp/syllabus

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

Ⅰ．成績評価の方法（履修規程 第5章 第32、34条）

成績は、試験（学期末試験、臨時の試験）、研究報告、論文などにより定める。なお、試験及び評価の方法や基準等は、講義要綱（シラバス）に定める。

Ⅱ．成績評価の基準（履修規程 第5章別表（第35条及び第35条の2関係）成績評価基準）

成績評語は、次の基準による。

評語	GP	評語の意味	判定	素点（百点満点での目安）
S	4	卓越水準	合格	100点より90点まで
A	3	目標到達水準	合格	89点より80点まで
B	2	到達途上水準	合格	79点より70点まで
C	1	単位認定下限水準	合格	69点より60点まで
D	0	単位不認定水準	不合格	59点以下
X	0	失格	不合格	
T		単位認定	合格	
P		合格	合格	
F		不合格	不合格	

備考

1　2段階評定科目では、P(合格)、F(不合格)を使用する。

2　本表は、2020年度在学生全員に適用する。ただし、2019年度以前の成績については、なお従前の例による。

Ⅲ．厳正かつ適切な単位授与、履修認定

シラバスに定める授業の到達目標及びテーマを踏まえ、同じく明示する成績評価の方法・基準（方法毎の割合）に沿って、客観的に判定している。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

Ⅰ．客観的指標

以下のとおり、ＧＰＡ制度を採用している。

履修した科目の評価を評点（Ｓ：４、Ａ：３、Ｂ：２、Ｃ：１、不合格：０）に換算し、その単位数で加重平均とすることによって算出している。

$$\frac{4\times S + 3\times A + 2\times B + 1\times C}{\text{総履修登録単位数（不合格の単位数を含む。）}}$$

※1「Ｔ（換算認定科目）」、2段階評定科目の「Ｐ（合格）」及び「Ｆ（不合格）」、教職課程科目等の卒業所要単位に算入しない科目は、ＧＰＡ算出の対象としない。

※2　成績証明書には、ＧＰＡの値は記載されない。

客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.seinan-gu.ac.jp/campuslife/class/study.html

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

<table>
<tr><td colspan="2">（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）
Ⅰ．卒業の認定に関する方針の具体的な内容
神学部、文学部、外国語学部、商学部、経済学部、法学部、人間科学部、国際文化学部のそれぞれにてディプロマ・ポリシーを策定し、卒業要件と修得する能力を明示している。
（※各学部のポリシーの詳細は、以下公表の内容のとおり）

Ⅱ．卒業の認定に関する方針の適切な実施
学部・学科によって定められた「修得する能力」を身に付け、専攻科目、関連科目、共通科目から所定の単位以上を修得し、学則に定める在学期間を満たす者へ学士の学位を授与している。
2 年次および 3 年次終了時点にて一定の修得単位の状況に鑑みた判定を実施するとともに、4 年次 4 月の段階で卒業見込判定を、最終的には 4 年次 3 月上旬に卒業判定を実施している。</td></tr>
<tr><td>卒業の認定に関する方針の公表方法</td><td>［理念と３つのポリシー］
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html

『学生便覧』（刊行物）
学部・学科のディプロマ・ポリシー（卒業要件、修得する能力）</td></tr>
</table>

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	西南学院大学
設置者名	学校法人　西南学院

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.seinan-gakuin.jp/info/public_financial.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.seinan-gakuin.jp/info/public_financial.html
財産目録	https://www.seinan-gakuin.jp/info/public_financial.html
事業報告書	https://www.seinan-gakuin.jp/info/public_financial.html
監事による監査報告（書）	https://www.seinan-gakuin.jp/info/public_financial.html

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：2022 年度事業計画　　対象年度：2022 年度　）
公表方法： https://www.seinan-gu.ac.jp/introduction/public_information/business_plan/groundplan.html
中長期計画（名称：後期中期計画 2021-2025　　対象年度：2021-2025 年度）
公表方法： https://www.seinan-gu.ac.jp/introduction/public_information/business_plan/groundplan.html

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法： https://www.seinan-gu.ac.jp/introduction/public_information/self_examination/report.html

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法： https://www.seinan-gu.ac.jp/introduction/public_information/self_examination/mutualrating.html

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　神学部神学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#stheology）
（概要） 神学部は、聖書やキリスト教思想・哲学・芸術を中心とする学びを通して、キリスト教精神の本質を究明するとともに、この精神を担い、日本、そして世界の精神文化の形成、倫理・道徳の向上、平和と福祉の促進に貢献する人間を育成するために、「神学コース」と「キリスト教人文学コース」の 2 コースを置き、キリスト教界の指導者、教会の伝道者・牧師などの専門職業人、並びにキリスト教精神を基盤として社会に貢献する人を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#stheology）
（概要） 1. 卒業要件 〔神学コース〕 以下の修得する能力を身に付け、専攻科目から 60 単位以上、専攻科目及び関連科目から 22 単位以上及び共通科目から 46 単位以上、合計 128 単位以上を修得し、本学学則に定める在学期間を満たす者へ学士（神学）の学位を授与する。 〔キリスト教人文学コース〕 以下の修得する能力を身に付け、専攻科目から 44 単位以上、専攻科目及び関連科目から 38 単位以上及び共通科目から 46 単位以上、合計 128 単位以上を修得し、本学学則に定める在学期間を満たす者へ学士（神学）の学位を授与する。 2. 修得する能力（両コースとも） (1) キリスト教精神の本質を究明し、それを実践することができる。 (2) 日本、そして世界の精神文化の形成、倫理･道徳の向上、平和と福祉の促進に貢献することができる。 (3) キリスト教界の指導者、教会の伝道者･牧師などの専門職業人として社会に貢献することができる。 (4) キリスト教精神を基盤としたリーダーシップと真摯な探究心で社会に貢献することができる。 3. 卒業後の進路 〔神学コース〕 日本バプテスト連盟内の教役者を志望する者は、学部卒業後、更に神学専攻科や大学院神学研究科に進学することが期待される。 〔キリスト教人文学コース〕 出版･新聞･放送等の文化機関、教職･社会福祉･図書館･博物館等及び神学･思想哲学系大学院進学等が期待される。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#stheology）

（概要）
1.体系（構成）
（1）神学コースとキリスト教人文学コースの2コース制となっている。
（2）神学科の授業科目は、専攻科目・関連科目・共通科目から構成されている。
①専攻科目では、専門分野を深く学ぶ。
②関連科目では、専門分野の視野を広げるために、専門分野に関連した科目を学ぶ。
③共通科目では、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育てるために、キリスト教学、人文科学、社会科学、自然科学、スポーツ科学及び外国語を学ぶ。
（3）神学は、聖書における神の啓示を根本的前提としてなされる学問であり、教会的基盤に立つ、いわば教会の学、信仰の学であって、啓示や福音の本質の究明をその目的とする。
（4）神学コースでは、キリスト教界で奉仕する人を養成することを目的として、神学の研鑽を積んでいく。特に、専攻選択科目の履修では、聖書学部門・歴史神学部門・組織神学部門・実践神学部門の各部門からバランスの取れた単位修得が期待される。
（5）キリスト教人文学コースは、神学をも含み、キリスト教との関連において、哲学・思想・歴史・文学・芸術等を研究する分野である。具体的には聖書学・キリスト教歴史・キリスト教神学の部門を土台として、オリエント学・西洋古典学・キリスト教文学・音楽・美術等、更には総合的な人間学を学び、幅広くキリスト教を基礎とした人文学を学修することを目的とする。
2.特色
（1）基礎的な現代語学（英語、ドイツ語）、古典語学（ギリシア語、ヘブライ語、ラテン語）を学修する。
（2）少人数による専門的な内容の教育を行う。
（3）古典教育を柱とした人格の陶冶を目指す。
（4）幅広い教養を培う教育を行う。
（5）実践的な課題を射程に置いた倫理学的な教育を行う
（6）卒業・修了論文を目標に置き、多様な学生が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる、本人の実力を育てる教育を行う。
3.具体的な教育内容
〔専門基本科目〕
キリスト教神学の4つの部門である聖書学、歴史神学、組織神学、実践神学の基礎を学び、キリスト教精神に基づく幅広い教養を身に付けることを目標とする。1年次はキリスト教神学全般、旧約聖書学、歴史神学の基礎を、2年次以降は新約聖書学、組織神学、実践神学の基礎を学ぶ。
〔古典語学・外書講読科目〕
神学を学ぶ上で不可欠なツールである古典語学（旧約聖書ヘブライ語、新約聖書ギリシア語、歴史神学のためのラテン語）、基礎的な現代語学（英語、ドイツ語）に習熟することを目標とする。1・2年次は上欄「専門基本」の履修順に対応した語学が配置されている。2年次以上の「外書講読」では欧米の神学書を読破する。
〔聖書学科目〕
福音の優れた解釈者･説教者となるために聖書の学びに精通することを目標とする。2年次で聖書テクストを読解し使信を明らかにする「釈義」を、3年次で聖書各文書の多様性を明らかにしつつその中心的使信を探求する「神学」を、4年次では独力で原典を解釈し、翻訳する「原典」を学ぶ。
〔歴史神学科目〕
歴史における信仰・神学の諸問題に精通し、今日の諸問題と切り結ぶことを目標とする。2年次で「教会史」、「日本キリスト教史」を、3年次でキリスト教神学の歴史を形作ってきた代表的神学者とその思想を「教理史」から、神学コース生は自教派のアイデンティティと課題についての理解を「バプテスト史」から学ぶ。
〔組織神学科目〕

日本そして世界の精神文化の形成、倫理･道徳の向上、平和と福祉の促進に貢献する人となるためにキリスト教精神を身に付けることを目標とする。2 年次でキリスト教会の宣教の学問的自己吟味たる「教義学」を学び、福音の本質に対する理解を深める。 3 年次で実践的な課題を射程に置いた倫理学等の諸科目を学ぶ。

〔実践神学科目〕

教会の基本的な働きである伝道・礼拝・宣教・牧会などを学び、平和･人権の課題に取り組み、社会に貢献できるキリスト教界の指導者、教会の伝道者･牧師等の専門職業人となるための技術を身に付けることを目標とする。 2 年次でキリスト教教育学を学び、3 年次で魂の配慮に知恵と愛をもって当たる牧会者･教育者となるための諸科目を学ぶ。

〔キリスト教人文学科目〕

諸学、特に人文学の諸領域の諸科学と対話しながら、人間と世界を正しく理解する力を身に付けることを目標とする。2 年次では幅広い教養を身に付けるためにキリスト教思想･哲学･芸術を中心として学び、3 年次ではキリスト教信仰の普遍性を踏まえ、国際感覚豊かな、社会奉仕の精神を持つ人となるための諸科目を学ぶ。

〔特殊科目〕

卒業論文に向けて少人数による専門的な内容の教育を行い、学習スキルを上げることを目標とする。3 年次から「特殊講義」「演習」により、主体的自覚的な課題抽出力を磨き、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を鍛える。4 年次の「卒業論文」は神学部における学修の集大成の場である。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#stheology）

（概要）

1. 求める学生像

神学科は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程の編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識･意欲を備えた者を求める。

(1) 神学コースは、キリスト教界における指導的な役割（伝道者･牧師、宣教師、教会主事など）を明確な目標に置く者。

(2) キリスト教人文学コースは、幅広い教養を身に付け、社会奉仕の精神を持つことを目指す者。

(3) 両コースに共通のこととして、基礎的な学力を有し、歴史的、人文･社会的、国際的な文化への関心のある者。

2. 選抜方法

神学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

(1) 一般選抜（一般入試、英語 4 技能利用型一般入試）

高等教育での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。

(2) 総合型選抜（総合型入試）

総合型入試では、小論文と面接を課し、出願時の学修計画書等を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的に判定する。

(3) 学校推薦型選抜（指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試）

学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。また、神学部独自の指定先として、キリスト教学校教育同盟加盟高校及び日本バプテスト連盟加盟教会から、神学部での学びに強い意欲と理解をもった者の推薦を受け入れる。入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。

(4) その他の選抜（外国人入試、帰国生入試、国際バカロレア入試）

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接､帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより､受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。国際バカロレア入試では、受験者に

面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

学部等名　文学部英文学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#english_literature）
（概要） 英文学科は、英語、英米文学・文化の教育・研究を通して、実践的な英語運用能力、広く深い教養と専門知識、豊かな感性と想像力、等を陶冶することに努め、グローバル化した社会の要請に応じうる人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#english_literature）
（概要） 1. 卒業要件 専攻科目から 70 単位以上、共通科目から 20 単位以上、専攻科目、関連科目及び共通科目から 38 単位以上、合計 128 単位以上を修得し、2 に挙げる能力を身に付け、本学学則に定める在学期間を満たす者へ学士（英文学）の学位を授与する。 2. 修得する能力 (1) 英語、英語圏の文学･文化の教育･研究を通して、論理的思考力を身に付けている。 (2) 英語に関する語学的知識を修得し、実践的運用能力を身に付けている。 (3) 英語圏の文学･文化･社会の在り方についての広く深い教養と専門知識を持っている。 (4) グローバルな視野に立って知識と情報を収集伝達する技術を修得している。 3. 卒業後の進路 運輸･旅行関連、マスコミ･情報関連、金融･保険関連の各業界、並びに公務員及び公立、私立の中学校･高等学校教員への就職や、大学院への進学が期待される。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#english_literature）
（概要） 1. 体系（構成） (1) 英文学科の授業科目は、専攻科目･関連科目･共通科目から構成されている。 ①専攻科目では、専門分野を深く学ぶ。 ②関連科目では、専門分野の視野を広げるために、専門分野に関連した科目を学ぶ。 ③共通科目では、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育てるために、キリスト教学、人文科学、社会科学、自然科学、スポーツ科学及び外国語を学ぶ。 (2) 社会の要請や学生のニーズに応じて、英語圏の文学･文化関係をはじめ様々なジャンルの科目を提供している。 (3) 1・2 年次は、リーディングスキル、スピーキングスキル、ライティングスキル、CALL 演習等のスキル系科目により、英語の実践的な能力の育成に力を注ぐ。 (4) 1 年次は、基礎演習と英米文学･文化基礎講読により、英語で書かれたテキストを正確に読み、それについて自らの考えをまとめ、レポートやプレゼンテーションによって発表する訓練を行う。同時に、英米文学･文化概説により、専門分野の入門的知識を得る。 (5) 2・3 年次は、英米文学･文化講読、イギリス文学史、アメリカ文学史、イギリス文化論、アメリカ文化論、英米文学･文化 研究等により、専門分野に関する知識を深める。 (6) 「文学･翻訳系」、「キャリアイングリッシュ系」、「グローバル文化系」の 3 つの履修モデルに提示された科目を履修することによって、英語の総合的な力を高めながら、文学と文化と社会に関する問題意識を養う。 (7) 3 年次必修の演習Ⅰ、4 年次必修の演習Ⅱでは、主として英語圏の文学･文化に関する研究テーマを設定した少人数のセミナー形式の授業により、専門的な研究を行う。

2. 特色
(1) 基礎科目、演習科目においてレポート作成、プレゼンテーションの方法等の指導を行う。
(2) 少人数制の語学教育を行う。
(3) 豊かな感性と想像力を育てる英語圏の文学･文化科目を開講する。
(4) グローバルな知識と情報を身に付ける学際的関連科目を開講する。
(5) 多様な課題に対して、学生が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる教育を行う。
3. 具体的な教育内容
〔基礎科目〕
「聴く」「話す」「読む」「書く」の 4 つのスキルを習得し、英語の実践的な能力の向上をはかるとともに、レポート作成やプレゼンテーションの方法等のアカデミックスキルを学ぶ。英語圏の文学作品をはじめ様々なテキストを読み解くための基礎を身に付けることで、3 年次以降の専門領域での学習活動が行えるように準備する。
〔英米文学･文化科目〕
英語圏の文学･文化を学ぶことで、深く広い教養を身に付け、豊かな感性と想像力を養う。更に、多様化する世界状況に対応するために、グローバリズム、批評理論、翻訳、映画、フェミニズムについての専門的な知識を学ぶ。
〔キャリアイングリッシュ科目〕
留学や就職活動で求められる資格試験のための学習を行い、英語を生かした職業で求められる基本的な知識の習得及び英語力の向上をはかる。
〔英語学･英語教育科目〕
英語の語学的知識を学び、英語と文化や社会との関係を認識する能力を養う。更に、英語の特性を科学的に分析し、その研究成果を教育に活かす能力を育成する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#english_literature）

（概要）
1. 求める学生像
英文学科は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程の編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識･意欲を備えた者を求める。
(1) 大学での学修に必要な基礎学力を有している者。
(2) 英文学科のカリキュラムが提供する講義に積極的に参加できる者。
(3) 英語の習得に高い関心を持つ者。
(4) 英語圏の文学･文化、社会について知的好奇心を持つ者。
2. 選抜方法
英文学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。
(1) 一般選抜（一般入試、英語 4 技能利用型一般入試、大学入試センター試験利用入試（前期･後期）、一般･センター併用型入試）
高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価する。また、一般入試では英語の配点比率を高くし、更に基準点を設けることにより、英文学科において専門知識を修得するための英語力を有しているかどうかも含めて判定する。
(2) 特別選抜（総合型選抜入試、指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試、国際バカロレア AO 入試）
総合型選抜入試では、小論文と面接を課し、面接においてはグループディスカッションも含むものとして、出願時の学修計画書等を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的に判定する。推薦入試では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求めるが、英文学科においては、更に英語の評定平均値や資格･検定試験のスコアなどを出願資格に加えることにより、特に英語に興味を持ち、その能力を維持発展させる意欲のある者を評価する。受験者には、小論文

と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。国際バカロレア AO 入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。
(3) その他の選抜（外国人入試、帰国生入試）
多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接､帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより､受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。

学部等名　文学部外国語学科英語専攻
教育研究上の目的（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#english）
（概要） 外国語学科英語専攻は、英語学・英語教育、コミュニケーション学、ビジネス英語、言語文化を教育・研究の柱とし、実践的な英語運用能力の育成を図るとともに、英語と文化や社会との関係を認識する能力を養い、英語の特性を科学的に分析する能力を涵養し、その研究成果を教育に活かす能力を育成し、社会の発展に寄与する自発的で創造性豊かな人材を育てることを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#english）
（概要） 1. 卒業要件 専攻科目から 70 単位以上、共通科目から 20 単位以上、専攻科目、関連科目及び共通科目から 38 単位以上、合計 128 単位以上を修得し、2 に挙げる能力を身に付け、本学学則に定める在学期間を満たす者へ学士（英語学）の学位を授与する。 2. 修得する能力 (1) 英語の語学的知識を修得している。 (2) 実践的な英語運用能力を身に付けている。 (3) グローバルな視野に立ち、言語と文化に関する豊かな知識を修得している。 (4) 豊かな人間関係を育むための知識、創造力、行動力を身に付けている。 3. 卒業後の進路 メーカー、商社、金融、小売、旅行･交通･観光関連、教育関連の各業界、並びに公務員及び公立、私立の中学校･高等学校教員への就職、更に大学院進学が期待される。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#english）
（概要） 1. 体系（構成） (1)外国語学科英語専攻の授業科目は､専攻科目･関連科目･共通科目から構成されている。 ①専攻科目では、専門分野を深く学ぶ。 ②関連科目では、専門分野の視野を広げるために、専門分野に関連した科目を学ぶ。 ③共通科目では、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育てるために、キリスト教学、人文科学、社会科学、自然科学、スポーツ科学及び外国語を学ぶ。 (2) 1・2 年次では、英語の基礎学力を向上させるために、「英語総合演習」「英語演習」「スピーキングスキル」「英文法」等の英語スキル養成科目を中心に学ぶ。また、1 年次の必修科目である「ことば学入門」と「コミュニケーション学入門」は、英語専攻での学修の基礎となる科目である。 (3) 2 年次には、「英語学概論」「コミュニケーション学基礎演習」「ビジネスコミュニケーション」等の入門科目を学ぶ。

(4) 3年次以降は、4つの部門から専門科目を学ぶ。
①英語学部門では、英語を人間の思想を反映する言葉としてとらえ、英語の語彙･構造･歴史等を理論的に研究する。
②コミュニケーション学部門では、英語を異文化コミュニケーションの手段の1つとしてとらえ、スピーチやコミュニケーションの理論を学び、豊かな人間関係を築くための訓練を行う。
③ビジネス英語部門では、英語の実務的運用能力の向上に重点を置き、国際ビジネスの仕組み及びビジネスコミュニケーションの諸問題を研究する。
④言語文化部門では、文学作品等を通して英語という言語の背後にある文化的･社会的要素を深く分析しながら、英語を使った日本文化の世界への発信方法を研究する。

2. 特色
(1) 少人数による英語スキルのクラスで、きめの細かい指導を行う。
(2) 英語を読む、書く、聴く、話す力の指導を行う。
(3) 個人の学力に合った指導を行う。
(4) 想像力、創造力、好奇心、探究心を養う教育を行う。
(5) 幅広い関連分野の学修機会を提供し、学生が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる教育を行う。

3. 具体的な教育内容
〔英語スキル養成関連科目〕
「読む」「書く」「聴く」「話す」の4つのスキルを中心に学び、専門領域で英語を生かした学修活動ができる英語力を身に付けると同時に、英語の修得を通じて、豊かな教養、批判的思考力、及び国際的に通用するコミュニケーション力を獲得する。
〔英語学関連科目〕
グローバル社会における英語の広がりを背景に、言語普遍性を念頭に置いた英語の理論的･認知科学的知見に目を開くと共に、歴史と社会の変容に伴う英語の多様性に目を向け、英語をより深く広い文化と社会の文脈の中で理解し、論理的思考力及び批判的思考力を備えた、教育研究分野をはじめとする社会で実践的に活躍できる力を身に付ける。
〔コミュニケーション学関連科目〕
英語の語学的知識を習得した上で、グローバル社会で実践的に有効なコミュニケーション能力を養成する。そのためにコミュニケーション学の基本的知識を習得し、それに基盤を置く能力を向上し、異文化はもちろん様々な対人関係を創造的に育む総合的コミュニケーション能力とともに、社会のあり方に関心を抱き、問題を発見、解決する能力を修得する。
〔ビジネス英語関連科目〕
国際ビジネスや貿易（輸出入取引）に関連する、メーカー、運輸･流通、金融、保険等多岐にわたる業界についての知識、また国際情勢や世界経済の情報を理解するデータや書類の読解やそれらを発信するための英語力を養う。更に、異文化経営や国際ビジネスにおける交渉力、意思決定能力、リーダーシップ等の英語によるビジネスコミュニケーションの知識とスキルを学ぶ。
〔言語文化関連科目〕
西洋の文化や言語に影響を与えた神話や宗教的逸話、或は日本文化の主なスタイルとその歴史的背景について学び、異なる文化や社会のみならず、自国の文化や社会に対して知的な見方ができるような思考力を鍛える。アカデミックライティング、及び英語による議論とプレゼンテーションのスキルを磨く。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#english）

（概要）
1．求める学生像
　外国語学科英語専攻は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程の編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識･意欲を備えた者を求める。
（1）大学での学修に必要な基礎学力を有している者。
（2）英語の基礎力を修得し、英語学習に積極的に取り組める者。
（3）異文化の他者と積極的にコミュニケーションする意欲を持つ者。
（4）自らの人間関係に関する好奇心と向上心を持つ者。
2．選抜方法
　外国語学科英語専攻では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。
（1）一般選抜（一般入試、英語 4 技能利用型一般入試、大学入試センター試験利用入試（前期･後期）、一般･センター併用型入試）
　高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価する。また、一般選抜のすべての入試において英語の配点比率を高くし、更に一般入試では英語に基準点を設けることにより、英語専攻において専門知識を修得するための英語力を有しているかどうかも含めて判定する。
（2）特別選抜（総合型選抜入試、指定校推薦入試､指定校選抜入試、併設高校からの推薦入試、国際バカロレア AO 入試）
　総合型選抜入試では、高水準の英語能力を有することを出願条件とし、入学後にその能力を積極的に活用し、他の学生に刺激を与えることを期待している。受験者に小論文と面接を課し、出願時の学修計画書等を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的に判定する。推薦入試では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求めるが、英語専攻においては、更に英語の評定平均値や資格･検定試験のスコアなどを出願資格に加えることにより、英語に興味を持ち、その能力を維持発展させる意欲のある者を評価する。受験者には、小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。国際バカロレア AO 入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。
（3）その他の選抜（外国人入試）
　多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人のための入試を実施する。一定の語学力を有することを出願要件としたうえで、日本語による作文と面接を課すことにより、受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。

学部等名　文学部外国語学科フランス語専攻
教育研究上の目的（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#french）
（概要） 　外国語学科フランス語専攻は、実践的なフランス語運用能力の育成を基礎として、より総合的で創造的なコミュニケーション能力の修得へと導きながら、言語を取り巻く社会や文化のありようを理解し、自己と異なる他者を発見してこれと積極的に対話を行ない、国際化・情報化する世界の中で知的行動力をもって活躍しうる人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#french）

（概要）
1．卒業要件
　専攻科目から 70 単位以上、共通科目から 20 単位以上、専攻科目、関連科目及び共通科目から 38 単位以上、合計 128 単位以上を修得し、2 に挙げる能力を身に付け、本学学則に定める在学期間を満たす者へ学士（フランス語）の学位を授与する。
2．修得する能力
（1）フランス語に関する語学的知識を修得し、実践的な運用能力を身に付けている。
（2）フランス語の基礎的な運用力を創造的な表現活動へと発展させることのできる、コミュニケーション能力を備えている。
（3）国際化･情報化する世界の中で自由に活躍することのできる知的行動力を身に付けている。
3．卒業後の進路
　運輸･旅行関連、マスコミ･情報関連、ファッション関連の各業界及びそれらの外資系企業、並びに通訳、翻訳家及び日本語教師等への就職が期待される。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#french）

（概要）
1．体系（構成）
（1）外国語学科フランス語専攻の授業科目は、専攻科目･関連科目･共通科目から構成されている。
　①専攻科目では、専門分野を深く学ぶ。
　②関連科目では、専門分野の視野を広げるために、専門分野に関連した科目を学ぶ。
　③共通科目では、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育てるために、キリスト教学、人文科学、社会科学、自然科学、スポーツ科学及び外国語を学ぶ。
（2）1 年次のフランス語基礎部門では、フランス語基礎文法 A･B、フランス語基礎会話 I･Ⅱ、フランス語基礎総合 I･Ⅱ･Ⅲ、フランス文化基礎演習 A･B を学ぶ。
（3）2 年次のフランス語応用部門では、各自の志向に沿って 3 つのコースに分かれる。
　①フランス語コミュニケーション集中コースでは、総合的なコミュニケーション能力を集中的に養成する。
　②フランス語コミュニケーションコースでは、コミュニケーション能力に力点を置きつつ、文化も含めて総合的にフランス語を習得する。
　③フランス文化コースでは、フランス語の運用能力の基礎を高めつつ、主にテキスト読解を中心としてフランス文化を学ぶ。
（4）3 年次では、フランス語アトリエにおいて、各教員の専門や個性を生かして、様々な角度からフランス語のテクニックを、少人数クラスにおいて専門的に学ぶ。
（5）4 年次には、当該年度に開設されている演習の中から 1 つを選択し、教員の指導のもとに 4 年間の集大成となる研究学修を行う。
2．特色
（1）少人数クラス編成によりフランス語の効果的な修得を目指す。
（2）話し言葉と書き言葉のバランスがとれた言語学修を行う。
（3）コース選択とアラカルト方式を並立させた科目履修により個人の能力と興味に適した学修指導を実現する。
（4）複数のネイティブ教師による実践的なコミュニケーション指導を行う。
（5）学生が自ら学修計画を立て、多様な課題に対して積極的に取り組む、主体的な学びを実現する教育を行う。
3．具体的な教育内容
〔フランス語運用能力を養成する科目〕
　フランス語による発話や文章の内容を正しく理解したり、自分の考えや状況に応じた表現を適切に相手に伝達することができ、語彙･知識力、文法力、読解力、作文力等をバランスよく身に付ける。
〔コミュニケーション能力を養成する科目〕

他国の人たちと意思疎通を行うために十分な言語力を備え、異なる価値観を越えて関係を構築し、その関わりを通して、自発的に新たな価値観を創造していく実践力を身に付ける。 〔文化の多様性に対する理解力と思考力を養成する科目〕 フランス語圏各地に固有の文化があることを発見し、その価値を正しく理解し考察する。文化的表現の多様性を認め、グローバル化が進む世界の中で多文化共生の課題に向き合う。 〔専門総合化能力を養成する科目〕 これまでに学んできたフランス語、フランス語圏の文化、文学、歴史、社会等の専門科目の知識を統合、発展させて人･モノ･情報が地球規模で流動する社会の中でどのような能力が求められるのかを見極める。質の高い語学力を活用して、異なる価値観を持つ人たちとコミュニケーションを行い、関わりを通して社会やビジネスを動かす発信力をもつ。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#french）
（概要） 1. 求める学生像 外国語学科フランス語専攻は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程の編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識･意欲を備えた者を求める。 （1）大学での学修に必要な基礎学力を有している者。 （2）新しい言語にチャレンジする意欲のある者。 （3）フランス語とフランス語圏の文化に高い関心をもつ者。 （4）コミュニケーションを通して他者の存在を発見し相互理解を志向する多文化的想像力をもつ者。 2. 選抜方法 外国語学科フランス語専攻では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。 （1）一般選抜（一般入試、英語 4 技能利用型一般入試、大学入試センター試験利用入試（前期･後期）、一般･センター併用型入試） 高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。 （2）特別選抜（総合型選抜入試、指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試、国際バカロレア AO 入試） 総合型選抜入試では、小論文とグループディスカッションを課し、出願時の学修計画書等を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的に判定する。推薦入試では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。また、フランス語専攻独自の指定先として、フランス語又は英語以外の外国語を正課授業として開講する高校からの推薦を受け入れ、フランス語専攻での学びに強い意欲と理解をもった者を評価する。推薦入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。国際バカロレア AO 入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。 （3）その他の選抜（外国人入試、帰国生入試） 多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接、帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。

学部等名　外国語学部外国語学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#sforeign_language_studies）

（概要）
外国語学部は、外国語に関する学問的知識と実践的な運用能力の習得を基盤とし課題解決を目指す総合的なコミュニケーション能力を身に付け、深い教養と広い知識を有する高いレベルの専門家として、言語・文学・文化の多様性を理解し、それらの価値観を尊重し、異なる背景を持つ人々と協調しながら、社会の諸課題の解決に取り組むことができる人材の養成を目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#sforeign_language_studies）

（概要）
1. 卒業要件
以下の修得する能力を身に付け、専攻科目から 80 単位以上、共通科目から 16 単位以上、専攻科目、関連科目及び共通科目から 28 単位以上、合計 124 単位以上を修得し、本学学則に定める在学期間を満たす者へ学士（外国語学）の学位を授与する。
2. 修得する能力
(1)外国語学を学ぶ目的及び外国語学を構成する学問体系と基本的な学び方について理解しているとともに、生涯にわたり知識を更新し、自らの資質を向上させる学習態度を身に付けている。
(2)外国語による言語活動に関する能力を習得しているとともに、個別領域のみならず複合領域にわたって積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。
(3) 外国語の仕組みと言葉の意味や働きなどの語学的な知識と実践的な運用能力を習得するとともに文学的教養を培い、言語の背景にある多様な文化や社会に関する広い知識を身に付けている。
(4)様々なジャンルや話題に関する事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら、目的に応じて議論を行う言語運用能力を身に付けている。
(5)外国語学分野に関する研究活動に必要となる基礎的な研究方法及び外国語学に関する専門的知識や研究方法を活用し、自ら課題を解決することのできる創造性を身に付けている。
3. 卒業後の進路
観光・旅行、航空・運輸、商社・貿易など、言語や文化が異なる人々との対話や交流が求められる各種産業をはじめ、通訳・翻訳、中学校・高等学校教諭、日本語学校教員など、外国語に関する専門的な知識や能力が求められる職種に携わることが期待される。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#sforeign_language_studies）

（概要）
1. 体系（構成）
(1) 教育研究の対象とする学問分野の理解のもと、大学での学習を遂行するための基本的知識と技術及び卒業後も自律・自立して学習できる生涯学習力を身に付けるための科目を配置する。
(2)外国語による「聞く」「話す」「読む」「書く」能力の習得及び４つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的な言語運用能力を身に付けるための科目を配置する。
(3)外国語が持つ言語の特徴等を理論的に理解するとともに、英語圏やフランス語圏の事情や文学・文化・社会に関する知識の習得と異なる文化に対する理解を深めるための科目を配置する。
(4)国際社会に関する多様な情報を収集し複眼的に分析し、適切に判断して、自らの考えや意見などを形成して発信することができる能力を身に付けるための科目を配置する。
(5) 外国語に関する文献講読や資料分析及び調査方法や分析手法などの能力の習得とともに、自らが立てた課題にそれらを適用し解決する能力を身に付けるための科目を配置する。

2. 特色
(1) 学説や物事などの意味や内容の理解を目的とする教育内容は、講義形式による授業形

態を採り、知識や技能を実践に応用する能力の習得を目的とする教育内容は、演習形式及び実習形式による授業形態を採る。
(2) 教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等をはじめとする教授方法を取り入れることにより、学生の能動的学修への参加を促す。
(3)教育課程を構成する授業科目の目標、内容、方法、評価を記した授業計画を示すとともに、教育課程編成・実施の方針を具体化し、可視化して共有するための教育課程構造図や履修系統図を示す。
(4)単位制度の実質化を図る観点から、特定の学期における偏りのある履修登録を避けるとともに、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する具体的な人材像に対応した典型的な履修モデルを提示する。
(5)卒業時における質を確保する観点から、予め学生に対して各授業科目における学習目標やその目標を達成するための授業の方法、計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業認定基準を示し、これに基づく厳格な評価を行う。
3. 具体的な教育内容
〔導入科目〕
「導入科目」は、教育研究の対象とする学問分野の理解のもと、大学での学習を遂行するための基本的知識と技術及び卒業後も自律して学習できる生涯学習力を身に付けるための科目として、2 科目 4 単位を必修科目として配置する。
〔スキル科目〕
「スキル科目」は、外国語による「聞く」「話す」「読む」「書く」能力の習得及び 4 つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的な言語運用能力を身に付けるための科目として、4 科目 16 単位を必修科目として配置し、20 科目 40 単位を選択科目として配置する。
〔専門基礎科目〕
「専門基礎科目」は、外国語が持つ言語の特徴等を理論的に理解するための科目として、14 科目 28 単位を選択科目として配置する。
〔専門展開科目〕
「専門展開科目」は、英語圏やフランス語圏の事情や文学・文化・社会に関する知識の習得と異なる文化に対する理解を深めるための科目として、46 科目 104 単位を選択科目として配置する。
〔演習・卒業論文部門〕
「演習・卒業論文部門」は、外国語に関する文献講読や資料分析及び調査方法や分析手法などの能力の習得とともに、自らが立てた課題にそれらを適用し解決する能力を身に付けるための科目として、1 科目 4 単位を必修科目として配置し、2 科目 8 単位を選択科目として配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#sforeign_language_studies）

（概要）
1. 求める学生像
外国語学科は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程の編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識･意欲を備えた者を求める。
(1) 外国語分野に対する強い興味と関心を持ち、学部教育に対する高い学習意欲を有している者。
(2) 高等学校で履修した主要科目について、教科書レベルの基礎知識が定着している者。
(3) 自分の考えを口頭や文章により適切に表現し、他者に対して的確に伝えることができる者。
(4) 多様な言語・文化・価値観を有する人々と協働して自主的に学ぶことができる者。
2. 選抜方法
外国語学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。
(1) 一般選抜（一般入試、英語 4 技能利用型一般入試、大学入学共通テスト利用入試（前

期･後期）、一般･共通テスト併用型入試）
高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価する。また、一般入試では英語の配点比率を高くし、外国語学科において専門知識を習得するための英語力を有しているかどうかも含めて判定する。
（2）総合型選抜（総合型入試）
総合型入試では、出願時の活動歴・志望理由・学修計画について論述した書類等により書類選考を行ったうえで、講義に基づく筆記試験を課し、学修計画に関するプレゼンテーションとその内容についてのグループによる質疑・ディスカッションを行い、書類選考を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的に判定する。
（3）学校推薦型選抜（指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試）
学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。
（4）その他の選抜（外国人入試、帰国生入試、国際バカロレア入試）
多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接､帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより､受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。国際バカロレア入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

学部等名　商学部商学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#scommerce）
（概要） 商学科では、商学と会計学の分野における高度な学術理論の教育と研究を通じて、商取引に関する正しい理解を深めさせる。モノとカネの効率的配分や円滑な流通を目的とする商学と企業成果の計算・公表を目的とする会計学について教育することで、問題設定能力とその解決能力を有するとともに、経済社会に柔軟に対応でき、かつ、高い倫理観と高度な専門知識を身に付けたビジネス・パーソンの育成を目指す。
卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#scommerce）
（概要） 1．卒業要件 以下の修得する能力を身に付け、専攻科目から 76 単位以上、関連科目又は専攻科目から 16 単位以上、共通科目から 28 単位以上、さらに専攻科目、関連科目又は共通科目から 8 単位以上、合計 128 単位以上を修得し、本学学則に定める在学期間を満たす者へ学士（商学）の学位を授与する。 2．修得する能力 （1）経済社会に生起する問題の本質を正しく認識することができる。 （2）高度な倫理観に支えられた論理的な思考力を身に付けている。 （3）新たな環境を積極的に創造する志の高いビジネス･パーソンを育成し、広く社会へ貢献することができる。 （4）商取引に関して正しく理解している。 （5）問題設定能力とその解決能力を身に付けている。 （6）経済社会に柔軟に対応でき、かつ、高い倫理観と高度な専門知識を身に付けている。 3．卒業後の進路 製造、卸･小売、金融･保険、情報･調査･専門サービス関連の各業界、並びに公務員･教員

等への就職、更に大学院への進学が期待される。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#scommerce）
（概要） 1．体系（構成） (1) 商学科の授業科目は、専攻科目･関連科目･共通科目から構成されている。 ①専攻科目では、専門分野を深く学ぶ。 ②関連科目では、専門分野の視野を広げるために、専門分野に関連した科目を学ぶ。 ③共通科目では、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育てるために、キリスト教学、人文科学、社会科学、自然科学、スポーツ科学及び外国語を学ぶ。 (2) 1 年次には、「主専攻」と「副専攻」を選択するための準備として、商学入門、会計学入門、経営学入門、経営情報学入門、基礎簿記、そしてビジネス情報処理基礎など、入門的な科目を配置している。 (3) 2 年次に進級する時点で、「主専攻」及び「副専攻」となるコースを選択する。商学部には、専門分野に応じて「商学コース」、「会計学コース」、「経営学コース」、そして「経営情報学コース」と 4 つのコースがある。商学科では、「主専攻」を「商学コース」と「会計学コース」の中から 1 つ選択し、「副専攻」を「主専攻」のコースを除く、残りの 3 つのコースの中から 1 つ選択する。 (4) 3 年次からは、演習ⅡA・ⅡB、外国語文献演習Ⅰ・Ⅱ、そして関連科目のすべてが履修可能となる。 (5) 4 年次では、演習ⅢA・ⅢB、卒業論文が履修可能である。4 年次以上において、専攻科目を 8 単位以上修得しなければ、卒業することができない。 2．特色 (1) 商学科では、2 年次から「主専攻」を、商学科の 2 つのコース、すなわち「商学コース」と「会計学コース」の中から選択し、「副専攻」と組み合わせ、経済社会に対応する能力を身に付ける学修を図る。 (2) 多様な学生のニーズに対処するために、「副専攻」は、経営学科の 2 つのコース、すなわち「経営学コース」と「経営情報学コース」も含めた 4 つのコースの中から選択できるようになっている。 (3) 基礎演習、演習Ⅰ、演習ⅡA・ⅡB、そして演習ⅢA・ⅢB といった少人数制で運用される演習を通して、自己表現力、コミュニケーション能力、問題設定能力とその解決能力を高める。 (4) 多様な学生が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる、本人の実力を育てる教育を行う。 3．具体的な教育内容 商学部における専攻科目は、教育内容に応じて 6 つの部門に分けられる。各部門の具体的な教育内容は次の通りである。 〔基礎部門〕 共同学習作業に必要な自己表現を通じて、他者と適切なコミュニケーションを取り交わす。商学部で取り扱う学問体系を理解し、学部の教育目標を把握し、主体的に学修する。外国語資料の読解を通じて、経済社会や企業経営について複眼的に理解する。 〔商学部門〕 物流、金融の機能と基本原理を理解し、これらの知識を現実の商取引を理解するために応用することで、急速に変化する経済社会に柔軟に対応する能力を身に付ける。物流、金融に係る歴史･現状･政策やリスク管理の手法を理解し、これらの知識を現実の商取引に応用することで、商取引における様々な課題を解決する能力を身に付ける。 〔会計学部門〕

会計分野の高度な専門知識をもつスペシャリストとして、会計情報を作成する能力を身に付ける。会計情報に基づく経営分析を行い、経営改善に向けたプレゼンテーションを行う能力を身に付ける。
〔経営学部門〕
高度な倫理観に支えられた論理的な思考ができるようになることを目指す。現代の経済社会における問題と経済活動の重要な一翼を担う企業の経営について、理論と実態調査に基づいて正確に理解し、それを論理的に表現する能力を身に付ける。
〔経営情報学部門〕
データベース、ネットワーク、シミュレーションについて基礎的な知論と技法を修得し、IT 社会や経営の分析に活用することができる能力を身に付ける。経済社会や経営で生起する諸現象を定量的に分析することができる能力を身に付ける。
〔研究･応用部門〕
ビジネスプロセスで生じる具体的な問題について、国内外の資料を渉猟検討し、専門知識に基づき解決案を導くことができる能力を身に付ける。問題解決のためのアイデアを具体的な形で表現し、その有効性を実証するための調査を計画し、実行することができるようになる。新たな環境を創造するよう能動的に取り組むことができるようになる。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#scommerce）

（概要）
1. 求める学生像
商学科は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程の編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識･意欲を備えた者を求める。
(1) 大学での学修に必要な基礎学力を有している者。
(2) 高度な倫理観に支えられた問題意識を持つ旺盛な知的好奇心のある者。
(3) 商学や会計学などの諸領域について広範かつ専門的な知識の学修を通じて、自らが立てた将来の目標の実現を図る志の高い知的柔軟性のある者。
2. 選抜方法
商学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。
(1) 一般選抜（一般入試、大学入学共通テスト利用入試（前期･後期）、一般･共通テスト併用型入試）
高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。
(2) 総合型選抜（総合型入試）
総合型入試では、日商リテールマーケティング（販売士）検定や日商簿記検定などの資格取得を出願資格に加えることにより、商学科での学びに強い興味を持ち、その能力を維持発展させる意欲のある者を評価する。受験者には小論文と面接を課し、出願時の学修計画書等を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的に判定する。
(3) 学校推薦型選抜（指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試）
学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。
(4) その他の選抜（外国人入試、帰国生入試、国際バカロレア入試）
多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接､帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより､受験者の意欲･関心､理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。国際バカロレア入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

学部等名　商学部経営学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#management）
（概要） 　経営学科では、経営学と経営情報学の分野における高度な学術理論の教育と研究を通じて、企業経営に関する正しい理解を深めさせる。現代の経済活動の重要な一翼を担っている企業の経営について、思想・戦略・組織・ヒト・モノ・カネ・情報・国際・環境などの観点から多面的に教育することで、高度な倫理観・理解力・構想力・表現力及び対人関係形成能力を備えた優れたビジネス・パーソンの育成を目指す。
卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#management）
（概要） 1．卒業要件 　以下の修得する能力を身に付け、専攻科目から 76 単位以上、関連科目又は専攻科目から 16 単位以上、共通科目から 28 単位以上、さらに専攻科目、関連科目又は共通科目から 8 単位以上、合計 128 単位以上を修得し、本学学則に定める在学期間を満たす者へ学士（経営学）の学位を授与する。 2．修得する能力 （1）経済社会に生起する問題の本質を正しく認識することができる。 （2）高度な倫理観に支えられた論理的な思考力を身に付けている。 （3）新たな環境を積極的に創造する志の高いビジネス･パーソンを育成し、広く社会へ貢献することができる。 （4）企業経営に関して正しく理解している。 （5）企業の経営について、高度な倫理観･理解力･構想力･表現力及び対人関係形成能力を身に付けている。 3．卒業後の進路 　製造、卸･小売、金融･保険、情報･調査･専門サービス関連の各業界、並びに公務員･教員等への就職、更に大学院への進学が期待される。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#management）
（概要） 1．体系（構成） （1）経営学科の授業科目は、専攻科目･関連科目･共通科目から構成されている。 ①専攻科目では、専門分野を深く学ぶ。 ②関連科目では、専門分野の視野を広げるために、専門分野に関連した科目を学ぶ。 ③共通科目では、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育てるために、キリスト教学、人文科学、社会科学、自然科学、スポーツ科学及び外国語を学ぶ。 （2）1 年次には、「主専攻」と「副専攻」を選択するための準備として、商学入門、会計学入門、経営学入門、経営情報学入門、基礎簿記、そしてビジネス情報処理基礎など、入門的な科目を配置している。 （3）2 年次に進級する時点で、「主専攻」及び「副専攻」となるコースを選択する。商学部には、専門分野に応じて「経営学コース」、「経営情報学コース」、「商学コース」、そして「会計学コース」と 4 つのコースがある。経営学科では、「主専攻」を「経営学コース」と「経営情報学コース」の中から 1 つ選択し、「副専攻」を「主専攻」のコースを除く、残りの 3 つのコースの中から 1 つ選択する。 （4）3 年次からは、演習ⅡA・ⅡB、外国語文献演習Ⅰ・Ⅱ、そして関連科目のすべてが履修可能となる。 （5）4 年次では、演習ⅢA・ⅢB、卒業論文が履修可能である。4 年次以上において、専攻

科目を8単位以上修得しなければ、卒業することができない。

2. 特色

(1) 経営学科では、2年次から「主専攻」を、経営学科の2つのコース、すなわち「経営学コース」と「経営情報学コース」の中から選択し、「副専攻」と組み合わせ、経済社会に対応する能力を身に付ける学修を図る。

(2) 多様な学生のニーズに対処するために、「副専攻」は、商学科の2つのコース、すなわち「商学コース」と「会計学コース」も含めた4つのコースの中から選択できるようになっている。

(3) 基礎演習、演習Ⅰ、演習ⅡA・ⅡB、そして演習ⅢA・ⅢBといった少人数制で運用される演習を通して、自己表現力、コミュニケーション能力、問題設定能力とその解決能力を高める。

(4) 多様な学生が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる、本人の実力を育てる教育を行う。

3. 具体的な教育内容

商学部における専攻科目は、教育内容に応じて6つの部門に分けられる。各部門の具体的な教育内容は次の通りである。

〔基礎部門〕

共同学習作業に必要な自己表現を通じて、他者と適切なコミュニケーションを取り交わす。商学部で取り扱う学問体系を理解し、学部の教育目標を把握し、主体的に学修する。外国語資料の読解を通じて、経済社会や企業経営について複眼的に理解する。

〔経営学部門〕

高度な倫理観に支えられた論理的な思考ができるようになることを目指す。現代の経済社会における問題と経済活動の重要な一翼を担う企業の経営について、理論と実態調査に基づいて正確に理解し、それを論理的に表現する能力を身に付ける。

〔経営情報学部門〕

アプリケーション、データベース、ネットワークについて基礎的な技法を修得し、経済社会や経営の分析に活用することができる能力を身に付ける。経済社会や経営で生起する諸現象を定量的に分析することができる能力を身に付ける。

〔商学部門〕

物流、金融の機能と基本原理を理解し、これらの知識を現実の商取引を理解するために応用することで、急速に変化する経済社会に柔軟に対応する能力を身に付ける。物流、金融に係る歴史･現状･政策やリスク管理の手法を理解し、これらの知識を現実の商取引に応用することで、商取引における様々な課題を解決する能力を身に付ける。

〔会計学部門〕

会計分野の高度な専門知識をもつスペシャリストとして、会計情報を作成する能力を身に付ける。会計情報に基づく経営分析を行い、経営改善に向けたプレゼンテーションを行う能力を身に付ける。

〔研究･応用部門〕

ビジネスプロセスで生じる具体的な問題について、国内外の資料を渉猟検討し、専門知識に基づき解決案を導くことができる能力を身に付ける。問題解決のためのアイデアを具体的な形で表現し、その有効性を実証するための調査を計画し、実行することができるようになる。新たな環境を創造するよう能動的に取り組むことができるようになる。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#management）

（概要）

1. 求める学生像

経営学科は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程の編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識･意欲を備えた者を求める。

(1) 大学での学修に必要な基礎学力を有している者。

(2) 高度な倫理観に支えられた問題意識を持つ旺盛な知的好奇心のある者。

(3) 経営学や経営情報学などの諸領域について広範かつ専門的な知識の学修を通じて、自らが立てた将来の目標の実現を図る志の高い知的柔軟性のある者。

2. 選抜方法

経営学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

(1) 一般選抜（一般入試､大学入学共通テスト利用入試（前期･後期）､一般･共通テスト併用型入試）

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。

(2) 総合型選抜（総合型入試）

総合型入試では、日商リテールマーケティング（販売士）検定や基本情報技術者試験などの資格取得を出願資格に加えることにより、経営学科での学びに強い興味を持ち、その能力を維持発展させる意欲のある者を評価する。受験者には小論文と面接を課し、出願時の学修計画書等を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的に判定する。

(3) 学校推薦型選抜（指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試）

学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。

(4) その他の選抜（外国人入試、帰国生入試、国際バカロレア入試）

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接､帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより､受験者の意欲･関心､理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。国際バカロレア入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

学部等名　経済学部経済学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#seconomics）
（概要） 経済学科は、経済学の理論体系、実証分析、政策分析、経済の歴史的分析及び現実経済の把握に関する諸分野の科目を有機的かつ総合的に教授し、日本と地域社会を中心とした経済の仕組みの論理的構造と実態とを理解させるとともに、データを科学的に分析し、先入観にとらわれない合理的結論を導き出す経済学的思考方法を鍛錬することによって、種々の経済社会問題に対する実践的解決法を見出す能力を有する人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#seconomics）
（概要） 1. 卒業要件 以下の修得する能力を身に付けるために、専攻科目から 76 単位以上、関連科目及び専攻科目から 24 単位以上、共通科目から 24 単位以上、専攻科目、関連科目及び共通科目から 4 単位以上、合計 128 単位以上を修得し、本学学則に定める在学期間を満たす者へ学士（経済学）の学位を授与する。 2. 修得する能力 (1) 経済学の基本的知識と特有の思考法を基礎とした、現代社会を生き抜く能力。 (2) 社会における重要問題の所在を自ら発見し、それに関して必要となる事項を自ら調べる能力、そして、その結果を簡潔かつ明瞭に報告し、更に問題に的確に対処できる能力。 (3) 社会の変動を正確に理解し、その展開過程に積極的に参画する能力。 (4) 日本と地域社会を中心とした経済の仕組みの論理的構造と実態とを理解する能力。

(5) 種々の経済社会問題に対する実践的解決法を見出す能力。
3. 卒業後の進路
製造、卸･小売り、金融･保険、運輸･旅行、マスコミ･情報関連の各業界、並びに公務員･教員等への就職、更に公認会計士等の資格試験への挑戦や大学院進学が期待される。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#seconomics）

（概要）
1. 体系（構成）
(1) 経済学科の授業科目は、専攻科目･関連科目･共通科目から構成されている。
①専攻科目では、専門分野を深く学ぶ。
②関連科目では、専門分野の視野を広げるために、専門分野に関連した科目を学ぶ。
③共通科目では、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育てるために、キリスト教学、人文科学、社会科学、自然科学、スポーツ科学及び外国語を学ぶ。
(2) 1 年次には、必修科目である「基礎演習 I」において経済学部で勉強する心構えと勉強のやり方を学び、経済理論の基礎科目や語学等の科目の履修により、経済学の基礎知識を身に付ける。
(3) 2 年次には、選択必修科目である「基礎演習Ⅱ」でより実用的な研究･発表能力を身に付けるとともに、理論･思想･政策･計量等幅広い経済学に関する科目の履修を通じて、経済学をより広い視野で学ぶ。
(4) 3 年次には、必修科目である「演習 I」で専門的な研究を行い、また現実経済の諸側面をより深く学ぶ科目の履修を通じて知識を深め、現実社会への応用力を身に付ける。
(5) 4 年次には、選択必修科目である「演習Ⅱ」と「卒業論文」が専門研究の集大成として位置付けられる。
2. 特色
(1) 本学の理念と経済学部の理念に立脚して、豊かな教養と創造性、深い専門知識と判断力を涵養するように教育課程が構成されている。
(2) 教育課程は、急速に進展するグローバル化に対応できるように構成されている。
(3) 学生の希望する多様な進路に対応できるように教育課程が構成されている。
(4) 学生の指導方法に常に改善を図っている。
(5) 学部の FD 活動の成果を教育･研究に常態的に還元している。
(6) 本学の教育研究交流プログラムによる国内外の教育研究機関との相互理解並びに互恵関係を通じて、教育･研究に質的改善をもたらしている。
(7) 多様な学生が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる、本人の実力を育てる教育を行う。
3. 具体的な教育内容
〔理論経済学科目〕
経済理論の基礎を学び、経済学的な思考に基づいて現実の経済現象を理解できるようになることを目標とする。1 年次は経済理論の基礎を、2 年次以降はより高度な経済理論、経済思想及び現実問題への応用を学ぶ。また同時に経済数学を履修することで分析に必要な数学的素養を身に付けることができる。
〔経済史科目〕
経済理論の基本的知識と歴史学の厳密な実証分析方法とを融合した経済史は経済学の応用分野に当たり、3 年次以上に配当している。現代経済の実態を、政治経済･社会･文化等多様な側面から歴史的に分析するための応用力を養う。
〔経済政策科目〕
経済政策の及ぶ範囲は幅広い。2 年次には、財政や金融等経済制度の基本的な仕組み、関連データの読み方、経済モデルに基づく政策分析の基本を学ぶ。これらを基礎として、産業、労働、環境、社会保障等の分野における経済政策の意義を学ぶ。
〔国際経済科目〕

グローバリゼーションの実態と日本を含む世界全体の諸相を広く学ぶ「世界と日本の経済」を 1 年次に履修する。2 年次以降でより専門的な知識を身に付け、世界経済の現状と課題を学ぶ。

〔財政学･金融論科目〕

経済学の応用分野であるため、経済学の基礎知識を身に付けていることを前提に、3 年次以上で日本の財政制度･政策、金融制度･政策を学ぶ。生活に密接にかかわる分野であるため多くの実例を基に財政･金融の仕組みと現状を学ぶ。

〔統計学科目〕

日常データや経済データの特性を理解し、それらを有効に活用するために必要な基礎知識を学ぶと共に、実証的分析手法の基礎と応用について実践的に学ぶ。1 年次に記述統計学、推測統計学の基礎事項を概観した上で、2 年次以降、その応用分析の手法について学ぶ。

〔社会政策科目〕

社会政策は、政府が個人の幸福追求を支援するために講じる諸手段を対象とする総合政策学である。2 年次で労働問題や社会保障、社会福祉等多様な分野における政策実態を広く学び、3 年次以降でより個別専門性の高い内容を学ぶ。

〔演習科目〕

演習（ゼミナール）は少人数で様々なテーマについて協力して研究を行う場であり、コミュニケーション能力とプレゼン能力を鍛える場である。1 年次の「基礎演習Ⅰ」において経済学部で勉強する心構えと勉強のやり方を学び、2 年次の「基礎演習Ⅱ」で実用的能力を身に付ける。3 年次以上に配当されているより専門性の高い「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」と「卒業論文」は、経済学部における学修の集大成の場である。

〔外国語科目〕

1 年次から、英語の新聞･雑誌等を通じて専門的な英語を学び、同時に実践的な会話を重視した科目を配当している。2 年次には韓国語の科目を置き、同時に英語運用能力も継続して向上できるように科目配当している。

〔実習科目〕

具体的な計算等の問題演習を通じて、経済学の実践的な知識と応用力を身に付ける。経済学の基礎知識と思考方法を前提とするので、2 年次以降に科目を配当し、理解を深めるためにきめ細かい指導を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#seconomics）

（概要）

1. 求める学生像

経済学科は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程の編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識･意欲を備えた者を求める。

(1) 基礎学力を身に付け、社会問題を分析する能力を持ち、経済学科への入学を強く志望する者。

(2) 現代世界で起きている様々な政治的･経済的･社会的な諸問題に関心を持ち、論理的な判断力をもってその解決を目指そうとする意欲を持った者。

(3) 日本や世界の歴史や現状に強い関心を持ち、未来を展望する視点を持つ者。

2. 選抜方法

経済学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

(1) 一般選抜（一般入試、英語 4 技能利用型一般入試、大学入学共通テスト利用入試（前期･後期）、一般･共通テスト併用型入試）

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかどうかを評価して判定する。また、一般･共通テスト併用型入試では、合否判定に利用する科目として大学入学共通テストから必ず数学を選択するなど、経済学科において専門知識を修得するための数学的能力を有しているかどうかも評価する。

(2) 総合型選抜（総合型入試）

総合型入試では、受験者の基礎的な知識や技能、思考力・判断力・表現力、主体性や協調性、そして本学での学修の意欲を、調査書および出願者作成の書類（学修計画書、活動報告書、志望理由書等）により書類選考を行ったうえで、講義にもとづく試験、そして面接によって、多面的・総合的に評価して判定する。

（3）学校推薦型選抜（指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試）

学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心のみならず、知識・技能、思考力･判断力・表現力を総合的に評価して判定する。

（4）その他の選抜（外国人入試、帰国生入試、国際バカロレア入試）

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接、帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の意欲･関心のみならず、知識・技能、思考力･判断力・表現力を総合的に評価して判定する。国際バカロレア入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、思考力・判断力・表現力を総合的に評価して判定する。

学部等名　経済学部国際経済学科

教育研究上の目的（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#international_economics）

（概要）

国際経済学科は、先入観にとらわれない合理的な経済学的思考方法の研鑽に加えて、国際社会の変化と国際経済及びビジネスのグローバル化の諸現象と相互の関連性、並びにそこから派生する諸問題の分析手法と対処方法立案の考え方を教授し、歴史・伝統・習慣・文化・宗教等の異なる諸外国との交流に役立つ語学力を基礎とした幅広い国際感覚を養成することによって、社会の国際化に寄与しうる人材を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#international_economics）

（概要）

1．卒業要件

以下の修得する能力を身に付けるために、専攻科目から 76 単位以上、関連科目及び専攻科目から 24 単位以上、共通科目から 24 単位以上、専攻科目、関連科目及び共通科目から 4 単位以上、合計 128 単位以上を修得し、本学学則に定める在学期間を満たす者へ学士（経済学）の学位を授与する。

2．修得する能力

（1）経済学の基本的知識と特有の思考法を基礎とした、現代社会を生き抜く能力。

（2）社会における重要問題の所在を自ら発見し、それに関して必要となる事項を自ら調べる能力、そして、その結果を簡潔かつ明瞭に報告し、更に問題に的確に対処できる能力。

（3）社会の変動を正確に理解し、その展開過程に積極的に参画する能力。

（4）語学力を基礎とした幅広い国際感覚を養成することによって、社会の国際化に寄与できる能力。

3．卒業後の進路

製造、卸･小売、金融･保険、運輸･旅行関連、マスコミ･情報関連の各業界、並びに公務員･教員等への就職、大学院への進学が期待される。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#international_economics）

（概要）
1．体系（構成）
（1）国際経済学科の授業科目は、専攻科目･関連科目･共通科目から構成されている。
①専攻科目では、専門分野を深く学ぶ。
②関連科目では、専門分野の視野を広げるために、専門分野に関連した科目を学ぶ。
③共通科目では、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育てるために、キリスト教学、人文科学、社会科学、自然科学、スポーツ科学及び外国語を学ぶ。
（2）1年次には、必修科目である「基礎演習Ⅰ」において経済学部で勉強する心構えと勉強のやり方を学び、経済理論の基礎科目や語学等の科目の履修により、経済学の基礎知識を身に付ける。
（3）2年次には、選択必修科目である「基礎演習Ⅱ」でより実用的な研究･発表能力を身に付けるとともに、国際経済に関する理論と世界各地の経済に関する科目を履修することで、より広い視野で国際経済を学ぶ。
（4）3年次には、必修科目である「演習Ⅰ」で専門的な研究を行い、また国際経済の諸側面をより深く学ぶ科目の履修を通じて、知識を深める。
（5）4年次には、選択必修科目である「演習Ⅱ」と「卒業論文」が専門研究の集大成として位置付けられる。
2．特色
（1）本学の理念と経済学部の理念に立脚して、豊かな教養と創造性、深い専門知識と判断力を涵養するように教育課程が構成されている。
（2）教育課程は急速に進展するグローバル化に対応できるように構成されている。
（3）学生の希望する多様な進路に対応できるように教育課程は構成されている。
（4）学生の指導方法に常に改善を図っている。
（5）学部の FD 活動の成果を教育･研究に常態的に還元している。
（6）本学の教育研究交流プログラムによる国内外の教育研究機関との相互理解並びに互恵関係を通じて、教育･研究に質的改善をもたらしている。
（7）多様な学生が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる、本人の実力を育てる教育を行う。
3．具体的な教育内容
〔理論経済学科目〕
経済理論の基礎を学び、経済学的な思考に基づいて現実の経済現象を理解できるようになることを目標とする。1年次は経済理論の基礎を、2年次以降は基本的な経済モデルを国際経済と関連する諸問題へ応用する方法を学ぶ。またアジアや欧米等各地域に焦点を当てた講義を並行して履修することで国際経済に関する諸問題をバランスよく分析できるようになる。
〔経済史科目〕
経済理論の基本的知識と歴史学の厳密な実証分析方法とを融合した経済史は経済学の応用分野に当たる。世界経済の要であるアメリカ経済の歴史を 2 年次以降で学ぶ。そして 3 年次以降は日本･西洋経済史を学び、現代経済の実態を、政治経済･ 社会･文化等多様な側面から歴史的に分析するための応用力を養う。
〔経済政策科目〕
経済政策が及ぶ範囲は幅広い。2年次には、財政や金融等経済制度の基本的な仕組み、関連データの読み方、経済モデルに基づく政策分析の基本を学ぶ。これらを基礎として、3年次には国際経済の諸問題に対応すべく実施される為替介入や貿易政策等多様な経済政策の意義を学ぶ。
〔国際経済科目〕
グローバリゼーションの実態を、日本を含む世界全体の諸相を広く学ぶ「世界と日本の経済」を 1 年次に履修し、2 年次以降で世界経済の現状と課題と共に、特に日本と関係の深いアメリカ、中国、東南アジア、中東経済について専門的に学ぶ。3年次では韓国、ヨーロッパ、ロシア･東欧経済を学び、世界経済を多面的かつ深く分析する能力を身に付ける。

〔財政学･金融論科目〕
経済学の応用分野であるため、経済学の基礎知識を身に付けていることを前提に、3 年次以上で日本及び外国の財政制度･政策、金融制度･政策を学ぶ。生活に密接にかかわる分野であるため多くの実例を基に財政･金融の仕組みと現状を学ぶ。
〔統計学科目〕
日常データや経済データの特性を理解し、それらを有効に活用するために必要な基礎知識を学ぶと共に実証的分析手法の基礎と応用について実践的に学ぶ。1 年次に記述統計、推測統計の基礎事項を概観した上で、2 年次以降、その応用分野の手法について学ぶ。
〔社会政策科目〕
社会政策は、政府が個人の幸福追求を支援するために講じる諸手段を対象とする総合政策学である。3 年次で、社会保障、医療等多様な分野における政策実態を広く学び、国際比較の視座を得る。
〔演習科目〕
演習（ゼミナール）は少人数で様々なテーマについて協力して研究を行う場であり、コミュニケーション能力とプレゼン能力を鍛える場である。 1 年次の「基礎演習Ⅰ」において経済学部で勉強する心構えと学習上のスキルを学び、 2 年次の「基礎演習Ⅱ」で実用的能力を身に付ける。 3 年次以上に配当されているより専門性の高い「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」と「卒業論文」は、経済学部における学修の集大成の場である。
〔外国語科目〕
国際経済を学ぶ上で英語は必須のツールである。1 年次から、英語で書かれた新聞･雑誌等を通じて専門的な英語を学び、同時に実践的な会話を重視した科目を配当している。2 年次には韓国語の科目を置き、同時に英語運用能力も継続して向上できるように科目配当している。
〔実習科目〕
具体的な計算等の問題演習を通じて、経済学の実践的な知識と応用力を身に付ける。経済学の基礎知識と思考方法を前提とするので、 2 年次以降に科目を配当し、理解を深めるためにきめ細かい指導を行う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#international_economics）

（概要）
1. 求める学生像
国際経済学科は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程の編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識･意欲を備えた者を求める。
(1) 基礎学力を身に付け、社会問題を分析する能力を持ち、国際経済学科への入学を強く志望する者。
(2) 日本や世界の歴史･伝統･文化を理解し、海外経験を通じて国際的な教養を身に付けたいと強く望む者。
(3) 現代世界で起きている様々な政治的･経済的･社会的な諸問題に関心を持ち、国際コミュニケーション力を基にその解決を目指そうとする意欲を持った者。
2. 選抜方法
国際経済学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。
(1) 一般選抜（一般入試、英語 4 技能利用型一般入試、大学入学共通テスト利用入試（前期･後期）、一般･共通テスト併用型入試）
高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかどうかを評価して判定する。また、一般･共通テスト併用型入試では、合否判定に利用する科目として一般入試から必ず英語を選択するなど、国際経済学科において専門知識を修得するための語学力を有しているかどうかも評価する。
(2) 総合型選抜（総合型入試）
総合型入試では、受験者の基礎的な知識や技能、思考力・判断力・表現力、主体性や協調性、そして本学での学修の意欲を、調査書および出願者作成の書類（学修計画書、活動

報告書、志望理由書等）により書類選考を行ったうえで、講義にもとづく試験、そして面接によって、多面的・総合的に評価して判定する。
（3）学校推薦型選抜（指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試）
学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲･関心のみならず、知識・技能、思考力･判断力・表現力を総合的に評価して判定する。
（4）その他の選抜（外国人入試、帰国生入試、国際バカロレア入試）
多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接、帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の意欲･関心のみならず、知識・技能、思考力･判断力・表現力を総合的に評価して判定する。国際バカロレア入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、思考力・判断力・表現力を総合的に評価して判定する。

学部等名　法学部法律学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#slaw）
（概要） 法律学科は、法学及び政治学の専門学智を修め、怜悧な識見を養うとともに、多様な価値観への理解を促し、公共の精神の涵養に努め、変容する現代社会に対する批判的思考力を育み、多方面にわたる社会活動に貢献できる人格の育成を図ることを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#slaw）
（概要） 1. 卒業要件 以下の修得する能力を身に付け、専攻科目から 78 単位以上、関連科目及び専攻科目から 8 単位以上、共通科目から 28 単位以上、専攻科目、関連科目及び共通科目から 16 単位以上、合計 130 単位以上を修得し、本学学則に定める在学期間を満たす者へ学士（法学）の学位を授与する。 2. 修得する能力 （1）法学及び政治学の専門学智を基礎に、多様な価値観の理解と、批判的思惟の力を身に付けている。 （2）現代社会の動態をみつめ、あらたな秩序構成に寄与できる識見を有する。 （3）変容する現代社会に対する批判的思考力を具えている。 （4）多方面にわたる社会活動に貢献することができる。 3. 卒業後の進路 製造、金融･保険、専門サービス関連の各業界、並びに公務員等への就職、更に大学院･法科大学院への進学が期待される。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#slaw）
（概要） 1. 体系（構成） （1）法律学科の授業科目は、専攻科目･関連科目･共通科目から構成されている。 ①専攻科目では、専門分野を深く学ぶ。 ②関連科目では、専門分野の視野を広げるために、専門分野に関連した科目を学ぶ。 ③共通科目では、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育てるために、キリスト教学、人文科学、社会科学、自然科学、スポーツ科学及び外国語を学ぶ。

(2) 法律学科では、わが国の伝統的な法学部のカリキュラムに即したオーソドックスな内容を基本として、その上で、国際関係法学科との連携によって、広く国際社会における法律･政治問題を取り扱う多様な科目を履修できる構造になっている。基本的な科目の学修を踏まえて、各自が将来の進路や問題、関心に応じて必要な科目を選択できるようなシステムになっている。導入、基本、応用という流れに即して、段階を追って必要な科目の履修を進める。

①1 年次には、専門科目を本格的に学ぶために最低限必要な知識と能力を早い時期に学修できるように導入科目が開設されており、 1 年次の後期からいくつかの本格的な専門科目の学修を始める。

②1･2 年次には、法の世界の根幹をなしているような基本的な科目が主に配置され、学年が進むにつれて、より専門分化された応用的な科目を学修する。

2. 特色

(1) 専門科目への円滑な移行を可能にする入門科目を導入している。

(2) 専門学智の習得を可能にする一貫した講義の配置を実現している。

(3) 法学･政治学における専門的学智と識見を修めるための体系的で高度な講義を行う。

(4) 専門学智と批判的思考力を体得するための双方向的少人数ゼミナール形式の教育を行う。

(5) 学生の多様な意欲と価値観に応じた教育を可能にする専門演習を行う。

(6) 多様な学生が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるような教育を行う。

3. 具体的な教育内容

〔導入科目〕

法律学を学ぶ上での基礎力を身に付ける。

〔基本法律科目〕

法律学の基本となる専門知識の修得とそれを用いた法的思考力･法解釈力を身に付ける。

〔発展法律科目〕

基本的な法的思考力の上に発展的な分野における法的問題解決力を身に付ける。

〔国際関係法･政治学科目〕

国際社会に生起する諸問題についての分析力を身に付ける。

〔専門語学科目〕

諸外国の法制度を分析するための専門的な語学力を身に付ける。

〔演習･実務関連科目〕

法的な議論を行うことができる力を身に付ける。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#slaw）

（概要）

1. 求める学生像

法律学科は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程の編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識･意欲を備え、かつ、大学での学修に必要な基礎学力を有している者を求める。

(1) 法学・政治学の専門学智、多様な価値観の理解、及び批判的思惟の力を修得できる学習力を有する者。

(2) 現代社会の動態をみつめ、あらたな秩序構成に寄与できる識見を修得できる学習力を有する者。

(3) 多方面にわたる社会活動に貢献することに意欲的な者。

2. 選抜方法

法律学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

(1) 一般選抜（一般入試、英語 4 技能利用型一般入試、大学入学共通テスト利用入試（前期･後期）、一般･共通テスト併用型入試）

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。また、一般･共通テスト併用型入試では、合否判定に利用する科

目として一般入試から必ず英語を、大学入学共通テストから数学を採用するなど、法律学科において専門知識を修得するための語学力及び数学的思考力を有しているかも併せて評価する。
(2) 総合型選抜（総合型入試）
総合型入試は、高等学校 3 年次でも数学科目を履修していることを出願資格に加えることにより、数学的思考力を有する者を評価する。受験者には小論文と面接を課し、出願時の学修計画書等を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的に判定する。
(3) 学校推薦型選抜（指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試）
学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。
(4) その他の選抜（外国人入試、帰国生入試、国際バカロレア入試）
多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接､帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより､受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。国際バカロレア入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

学部等名　法学部国際関係法学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#internationallaw）
（概要） 国際関係法学科は、社会の国際化に起因する諸現象を法的・政治的観点から学術的に深く掘り下げて理解しうる識見を養い、普遍的な視野と共生の精神の涵養に努め、多様な活動の場において国際共同社会の課題に取組み、異文化交流に貢献できる人格の育成を図ることを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#internationallaw）
（概要） 1. 卒業要件 以下の修得する能力を身に付け、専攻科目から 78 単位以上、関連科目及び専攻科目から 8 単位以上、共通科目から 28 単位以上、専攻科目、関連科目及び共通科目から 16 単位以上、合計 130 単位以上を修得し、本学学則に定める在学期間を満たす者へ学士（法学）の学位を授与する。 2. 修得する能力 (1) 法学及び政治学の専門学智を基礎に、多様な価値観の理解と、批判的思惟の力を身に付けている。 (2) 変容する国際社会の秩序構成に寄与できる識見を有する。 (3) 国際化に起因する諸現象を法的･政治的観点から学術的に深く掘り下げて理解しうる識見を具えている。 (4) 多様な文化を受容し、異文化交流に貢献することができる。 3. 卒業後の進路 卸･小売り、マスコミ･情報、運輸･旅行関連の各業界及びそれらの外資系企業、並びに外務省及び国際機関の職員等への就職、更に大学院･法科大学院への進学が期待される。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#internationallaw）

（概要）
1．体系（構成）
(1) 国際関係法学科の授業科目は、専攻科目･関連科目･共通科目から構成されている。
①専攻科目では、専門分野を深く学ぶ。
②関連科目では、専門分野の視野を広げるために、専門分野に関連した科目を学ぶ。
③共通科目では、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育てるために、キリスト教学、人文科学、社会科学、自然科学、スポーツ科学及び外国語を学ぶ。
(2) 国際関係法学科では、基礎的な法律科目と併せて国際関係法にかかわる様々な科目を修得していくと同時に、国際社会についての知識を深めるための政治や経済系の科目、あるいは国際社会について学ぶために不可欠な外国語を平行して履修していく構造になっている。基本的な科目の学修を踏まえて、各自が将来の進路や問題関心に応じて必要な科目を選択できるようなシステムになっている。導入、基本、応用という流れに即して、段階を追って必要な科目の履修を進める。
①1 年次には、導入科目並びに国際関係について勉強するための基盤となる政治や語学の科目を学修する。1 年次後期には、基本的な国内法を学修する。
②2 年次から 3 年次には、国際法、国内法及び政治学の専門的、応用的な科目を学修するとともに、高いレベルの英語科目及び英語以外の専門外国語科目を学修する。
2．特色
(1) 専門科目への円滑な移行を可能にする入門科目を導入している。
(2) 専門学智の習得を可能にする一貫した講義の配置を実現している。
(3) 法学･政治学における専門的学智と識見を修めるための体系的で高度な講義を行う。
(4) 専門学智と批判的思考力を体得するための双方向的少人数ゼミナール形式の教育を行う。
(5) 学生の多様な意欲と価値観に応じた教育を可能にする専門演習を行う。
(6) 国際社会の多方面で活躍することができるための社会で生きる力を養う教育を行う。
(7) 多様な学生が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるような教育を行う。
3．具体的な教育内容
〔導入科目〕
法律学を学ぶ上での基礎力を身に付ける。
〔国際関係法科目 A 基本科目〕
国際関係法の基本的専門知識の習得とそれを用いた法的思考力を身に付ける。
〔国際関係法科目 B 発展科目〕
国際関係法の発展的分野における法的問題解決能力を身に付ける。
〔政治学科目〕
政治学･国際関係分野の専門知識の習得とそれを用いた国際社会の問題の分析力を身に付ける。
〔基本法律科目〕
法律学の基本となる専門知識の修得とそれを用いた法的思考力･法解釈力を身に付ける。
〔基礎･発展法律科目〕
基本的な法的思考力の上に発展的な分野における法的問題解決力を身に付ける。
〔専門語学科目〕
国際関係及び国際関係法の分析力を向上させるための専門的な語学力を身に付ける。
〔演習･実務関連科目〕
法的･政治学的な議論を行うことができる力を身に付ける。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#internationallaw）

（概要）
1．求める学生像
国際関係法学科は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程の編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識・意欲を備え、かつ、大学での学修に必要な基礎学力を有している者を求める。
（1）法学・政治学の専門学智、多様な価値観の理解、及び批判的思惟の力を修得できる学習力を有する者。
（2）変容する国際社会の秩序構成に寄与できる識見及び国際化に起因する諸現象を法的・政治的観点から学術的に深く掘り下げて理解しうる識見を修得できる学習力を有する者。
（3）多様な文化を受容し、異文化交流に貢献することに意欲的な者。
2．選抜方法
国際関係法学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。
（1）一般選抜（一般入試、英語 4 技能利用型一般入試、大学入学共通テスト利用入試（前期･後期）、一般･共通テスト併用型入試）
高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。また、一般･共通テスト併用型入試では、合否判定に利用する科目として一般入試から必ず英語を、大学入学共通テストから数学を採用するなど、国際関係法学科において専門知識を修得するための語学力及び数学的思考力を有しているかも併せて評価する。
（2）総合型選抜（総合型入試）
総合型入試では、高等学校 3 年次でも数学科目を履修していること、英語の資格・検定試験のスコアを出願資格に加えることにより、数学的思考力や語学力を有する者を評価する。受験者には小論文と面接を課し、出願時の学修計画書等を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的に判定する。
（3）学校推薦型選抜（指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試）
学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。
（4）その他の選抜（外国人入試、帰国生入試、国際バカロレア入試）
多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接､帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより､受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。国際バカロレア入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

学部等名　人間科学部児童教育学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#child_education）
（概要） 児童教育学科は、キリスト教主義による人間教育の理念に基づいて教育を行い、教育・保育の分野に関する専門的知識と技能の習得を通じて、これらの分野の専門家である保育士、幼稚園教諭、小学校教諭などを養成するとともに、これらの専門的知識と技能を活かして社会に貢献しうる人間を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#child_education）

（概要）
1．卒業要件
以下の修得する能力を身に付け、専攻科目から 80 単位以上、共通科目から 39 単位以上、関連科目及び共通科目から 12 単位以上、合計 131 単位以上を修得し、本学学則に定める在学期間を満たす者へ学士（教育学）の学位を授与する。
2．修得する能力
(1) 人間の生涯にわたる成長及び発達、それに関わる保育と教育について原理的な知識と理解を備えている。
(2) 人文・社会・自然など諸科学に対する幅広い知識と深い理解を備えている。
(3) 諸環境に対する幼児・児童の豊かな出会いを構成するための知識・技能を備えている。
(4) 保育・教育分野の基本的知識・技能を習得し、現実場面に応用できる。
(5) 実社会において、他者を受容し共感する能力があり、倫理的な判断力を持って現場の責任を担うことができる。
(6) 対人関係の支援、円滑な人間関係の構築、維持、効果的な課題遂行のためのコミュニケーション能力を身に付けている。
(7) 保育・教育に関する現象の中から、解決すべき課題を自ら発見することができ、解決のための道筋を構想することができる。
(8) データベースや図書館等を利用して必要な資料を収集することができ、また、その内容を適切に解釈して活用することができる。
(9) 主体的思考力や総合的判断力、発表能力、情報処理能力等があり、新たな社会の変化に参画することができる。
(10) 保育・教育の視点からグローバルな事象について考察する力を身に付けている。
(11) 知識と外国語を利用して実践できる。
3．卒業後の進路
公私立の保育園（所）、幼稚園、小学校及び福祉施設･機関への就職、更に大学院への進学が期待される。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#child_education）

（概要）
1．体系（構成）
(1) 児童教育学科の授業科目は、専攻科目･関連科目･共通科目から構成されている。
①専攻科目では、専門分野を深く学ぶ。
②関連科目では、専門分野の視野を広げるために、専門分野に関連した科目を学ぶ。
③共通科目では、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育てるために、キリスト教学、人文科学、社会科学、自然科学、スポーツ科学及び外国語を学ぶ。
(2) 1 年次には、大学での学習･研究の基礎能力を身に付けるために基礎演習を必修科目として履修する。
(3) 2 年次には、児童教育の専門分野について理論と実践の両面において幅広くかつ深く学習･研究するために用意された専攻科目を中心に履修する。上記に含まれる保育内容の研究、教科研究、音楽･造形･体育、教育実習指導等を通して、実践的な基礎能力を培う。なお、専攻科目は以下の 4 つの科目群から構成されている。
①保育･福祉に関する科目
②教育･心理に関する科目
③教科研究に関する科目
④演習･卒業論文に関する科目
(4) 教育･保育現場における実地体験や介護等体験で実践的な知識･技能を習得する。
(5) 3 年次の演習Ⅰでは、調査･報告･討論を中心とした少人数での学習で専門性を深めながら、自分の追及課題を決定する。
(6) 4 年次には、これまでの学習･研究の総仕上げとして全員が卒業論文に取組み、中間報告を経て提出する。

2. 特色

(1) 少人数による探究を可能とするカリキュラム構成により、全員が 1 年次に基礎演習で学問への取り組みの基礎を学び、更に 3 年次、4 年次には所属した演習の中で自分の研究課題を設定し、探究を深め、卒業論文を作成する。

(2) 幅広くバランスのとれたカリキュラム構成により、キリスト教の全人教育を基礎にして、保育･教育を中心に自然科学、人文科学、社会科学、スポーツ科学、等を幅広く学ぶ。

(3) 一人ひとりの進路に対応したカリキュラム構成により、自分の進路や目的に応じて資格を自由に選択することができるよう、保育･教育に関する教科を基礎として、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭等のそれぞれの資格ごとに専門科目を系統･体系的に構成している。

(4) 学生が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる、本人の実力を育てる教育を行う。

3. 具体的な教育内容

〔関連科目･共通科目〕

社会や自然に対する深い理解、他者への共感、高い倫理意識を身に付ける。幅広い視野、健康な心身、論理的な思考力を身に付ける。主体的思考力や総合的判断力、発表能力、情報処理能力等があり、新たな社会の変化に参画する能力を身に付ける。知識と外国語を利用して実践できる能力を身に付ける。

〔保育･福祉に関する科目〕

人間の生涯にわたる成長と発達について理解する。保育･教育分野の基本的知識･技能を習得し、現実場面で実践できる能力を身に付ける。

〔教育･心理に関する科目〕

対人関係の支援に必要なコミュニケーション能力と応用的能力を身に付ける。保育･教育に関する現象の中から、解決すべき課題を自ら発見することができ、解決のための道筋を構想することができる能力を身に付ける。

〔教科研究に関する科目〕

保育・教育分野の基本的知識・技能を習得し、現実場面に応用できる。

〔演習･卒業論文〕

データベースや図書館等を利用して必要な資料を収集することができ、また、その内容を適切に解釈して活用することができる能力を身に付ける。保育･教育の視点からグローバルな事象について考察する力を身に付ける。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#child_education）

（概要）

1. 求める学生像

児童教育学科は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程の編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識･意欲を備えた者を求める。

(1) 大学での学修に必要な基礎学力を有している者。

(2) 自分をとりまく諸世界（人間･社会･自然など）について学ぶことに関心を持ち、それらに対する基礎的知識を有する者。

(3) 将来、保育･教育の現場で活動することに意欲を持ち、その活動に幅広く関わる内容への基本的な学習能力を有する者。

(4) 社会性、規範意識があり、人や社会と関わることに意欲的な者。

2. 選抜方法

児童教育学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

(1) 一般選抜（一般入試、大学入学共通テスト利用入試（前期･後期）、一般･共通テスト併用型入試）

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。また、一般･共通テスト併用型入試では、合否判定に利用する科目として、大学入学共通テストから必ず数学または理科を採用することなど、児童教育学

科において専門知識を修得するための理数的能力を有しているかについても併せて評価する。
（2）総合型選抜（総合型入試）
総合型入試では、英語の資格・検定試験のスコアを出願資格に加えることにより、語学力を有する者を評価する。出願時の学修計画書等により書類選考を行ったうえで、グループディスカッション及び面接を踏まえ、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的・多面的に判定する。
（3）学校推薦型選抜（指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試）
学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。入試では受験者に小論文と面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。
（4）その他の選抜（外国人入試、帰国生入試、国際バカロレア入試）
多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接､帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより､受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。国際バカロレア入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

学部等名　人間科学部社会福祉学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#social_welfare）
（概要） 社会福祉学科は､キリスト教主義による人間教育の理念に基づいて教育を行ない､社会福祉の分野に関する専門的知識と技能の習得を通じて、これらの分野の専門家である社会福祉士、精神保健福祉士、保育士などを養成するとともに、これらの専門的知識と技能を生かして社会に貢献しうる人間を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#social_welfare）
（概要） 1．卒業要件 以下の修得する能力を身に付け、専攻科目から 90 単位以上、共通科目から 26 単位以上、関連科目及び共通科目から 8 単位以上、合計 124 単位以上を修得し、本学学則に定める在学期間を満たす者へ学士（社会福祉）の学位を授与する。 2．修得する能力 （1）人間の生涯にわたる成長と発達について自然環境や社会と関連させて理解している。 （2）人間の尊厳の価値を踏まえて自らが社会的役割を有することを自覚し、主体的思考力や総合的判断力、発表能力、情報処理能力等をもって新たな社会の変化に柔軟に対応し問題解決に向けて行動する。 （3）人権と社会正義の理念に精通し、高い倫理観を身に付けている。 （4）他者を受容し共感する力を修得している。 （5）個人と社会の幸福を追求し、それらが相互に関連していることを理解し、社会福祉専門職となる基本的知識と技術を備えている。 （6）科学･文化･社会の体系の基本的意義を理解している。 （7）社会福祉分野の専門的知識･技能を習得し、現実場面で実践できる。社会福祉に関する資格や免許を取得するために必要な能力を修得している。 （8）対人関係の支援に必要なコミュニケーション能力と応用的能力を身に付けている。 （9）人々が抱える様々な生活問題の中で、社会的支援が必要な問題を自ら発見し、それらに対する適切な仮説を生成することができる。

（10）データベースや図書館等を利用して必要な資料を収集することができ、また、その内容を適切に解釈して活用することができる。
（11）社会福祉学的視点からグローバルな事象について考察する力を身に付けている。
（12）知識と外国語を利用して実践できる。
3．卒業後の進路
社会福祉（児童、障がい者、高齢者）、福祉行政分野（福祉事務所、児童相談所）、社会福祉協議会、医療保健機関、NPO 法人、高等学校教員等への就職、更に大学院への進学が期待される。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#social_welfare）

（概要）
1．体系（構成）
（1）社会福祉学科の授業科目は、専攻科目･関連科目･共通科目から構成されている。
①専攻科目では、専門分野を深く学ぶ。
②関連科目では、専門分野の視野を広げるために、専門分野に関連した科目を学ぶ。
③共通科目では、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育てるために、キリスト教学、人文科学、社会科学、自然科学、スポーツ科学及び外国語を学ぶ。
（2）専攻科目は、以下の 6 つの科目群から構成されている。
①基本科目及び方法･技術科目では、社会福祉に関する基本的知識と援助内容を学修する。科目中の「社会福祉原論Ⅰ･Ⅱ」は、卒業必修科目である。
②技術演習･実習科目では、社会福祉士、精神保健福祉士及び保育士資格取得のために福祉現場での実習教育を受講する。
③専門領域科目･専門展開科目では、将来の進路に対応した専門的な内容を学ぶ。特に、専門領域科目では、児童福祉、障害者福祉、老人福祉、コミュニティ福祉の 4 つの学習領域に区分した諸科目群を学ぶ。
④専門演習･卒業論文では、各自が課題を設定し、レポート作成、研究発表、グループ討議を通して課題の探求を行う。その成果を卒業論文として作成･提出することも可能である。
2．特色
（1）入学時から、人間と福祉を探求するカリキュラム構成により、 1 年次の基礎演習を通して、学問に取り組む基本と集団の力動を学ぶ。 2 年次、 3 年次の専門教育を経て、 4 年次には自分の研究課題を専門演習で探求し、論文を作成することができる。
（2）一般教養科目を重視した幅広いカリキュラム構成により、キリスト教学を含む人文科学、社会科学、自然科学、スポーツ科学、外国語等を選択的に学ぶことができる。
（3）一人ひとりの進路に対応したカリキュラム構成により、希望する進路に応じて社会福祉学を修め、資格取得に関する科目を系統的･体系的に学ぶことができる。
（4）多様な学生が自ら学修計画を立 て、主体的な学びを実践できる、本人の実力を育てる教育を行う。
3．具体的な教育内容
〔基本科目〕
社会福祉分野の専門的知識･技能を習得し個人と社会の幸福を追求し、それらが相互に関連していることを理解し、社会福祉専門職となる基本的知識と技術を身に付ける。人権と社会正義の理念に精通し、社会福祉に関する資格や免許を取得するために必要な能力を修得する。
〔方法･技術科目〕
データベースや図書館等を利用して必要な資料を収集し、また、その内容を適切に解釈して活用する。社会福祉に関する資格や免許を取得するために必要な能力を修得する。
〔技術演習･実習科目〕
社会福祉分野の専門的知識･技能を現実場面で実践できるように習得する。対人関係の支援に必要なコミュニケーション能力と応用的能力を身に付ける。

〔児童福祉科目〕
児童が抱える様々な生活問題の中で、社会的支援が必要な問題を自ら発見し、それらに対する適切な仮説を生成することができる能力を身に付ける。人権の理念に精通し、高い倫理観を身に付ける。他者を受容し共感する力を修得する。
〔障害者福祉科目〕
障害者が抱える様々な生活問題の中で、社会的支援が必要な問題を自ら発見し、それらに対する適切な仮説を生成することができる能力を身に付ける。他者を受容し共感する力を修得する。
〔老人福祉科目〕
高齢者が抱える様々な生活問題の中で、社会的支援が必要な問題を自ら発見し、それらに対する適切な仮説を生成することができる能力を身に付ける。他者を受容し共感する力を修得する。
〔コミュニティ福祉科目〕
地域が抱える様々な生活問題の中で、社会的支援が必要な問題を自ら発見し、それらに対する適切な仮説を生成することができる能力を身に付ける。
〔専門展開科目〕
人権と社会正義の理念に精通し、高い倫理観を身に付ける。
〔保育に関する科目〕
児童や児童を取り巻く保育環境の中で、社会的支援が必要な問題を自ら発見し、それらに対する適切な仮説を生成することができる能力を身に付ける。人権と社会正義の理念に精通し、高い倫理観を身に付ける。他者を受容し共感する力を修得する。人間の生涯にわたる成長と発達について自然環境や社会と関連させて理解する。
〔専門演習・卒業論文科目〕
社会福祉学的視点から、グローバルな事象について考察する力を身に付ける。データベースや図書館等を利用して必要な資料を収集することができ、その内容を適切に解釈して活用する。人々が抱える様々な生活問題の中で、社会的支援が必要な問題を自ら発見し、それらに対する適切な仮説を生成することができる能力を身に付ける。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#social_welfare）

（概要）
1. 求める学生像
社会福祉学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた者を求める。
(1) 大学での学修に必要な基礎学力を有している者。
(2) 人と環境について学ぶことに関心をもち、基本的な学習能力を有する者。
(3) 将来、社会に貢献する意欲をもち、特に社会福祉分野に自らの課題を見出せる者。
(4) 地域や社会に参画する能力が高く、倫理規範を備えた者。
2. 選抜方法
社会福祉学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。
(1) 一般選抜（一般入試、大学入学共通テスト利用入試（前期・後期）、一般・共通テスト併用型入試）
高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。
(2) 総合型選抜（総合型入試）
総合型入試では、高校時の諸活動を評価する活動実績型と、社会人としての活動や経験を評価する社会人対象を実施する。受験者に小論文と面接を課し、出願時の学修計画書や職務経歴書等も含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的・多面的に判定する。
(3) 学校推薦型選抜（指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試）
学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒

の推薦を求める。また、社会福祉学科として独自に、福祉科、介護福祉科等を設置する高校から福祉関係コースで学ぶ生徒の推薦を受け入れ、社会福祉学科での学びに強い関心を持ち、高校での学びを維持発展させる意欲のある者を対象とする。入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。

（4）その他の選抜（外国人入試、帰国生入試、国際バカロレア入試）

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接､帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより､受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。国際バカロレア入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

学部等名　人間科学部心理学科
教育研究上の目的（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#psychology）
（概要） 心理学科は、キリスト教主義による人間教育の理念に基づいて教育を行ない、心理学の分野に関する専門的知識と技能の習得を通じて、様々な事態において人の心を科学的に調査および分析できる専門的な知識技術をもつ人材を養成するとともに、人間関係調整能力等をもち、応用力を備えた人材を育成し、グローバルな視点から社会に貢献しうる人間を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#psychology）
（概要） 1．卒業要件 以下の修得する能力を身に付け、専攻科目から 80 単位以上、関連科目から 6 単位以上、共通科目から 38 単位以上、合計 124 単位以上を修得し、本学学則に定める在学期間を満たす者へ学士（心理学）の学位を授与する。 2．修得する能力 （1）人間の生涯にわたる成長や特質、他者との関係について理解している。 （2）心理学の基礎的な手法である心理調査や分析技法に関する専門的知識と技能を習得している。 （3）心理学の基礎的知識を身に付けている。 （4）対人関係の支援、円滑な人間関係の構築･維持、効果的な課題遂行のためのコミュニケーション能力を身に付けている。 （5）心理学的な視点から、グローバルな事象について考察する力を身に付けている。 （6）科学･文化･社会の大系の基本的意義を理解している。 （7）人間の心理過程や行動に関わるデータ分析技能やカウンセリング技能を習得し、現実場面で実践できる。 （8）実社会において、他者を受容し共感する能力があり、倫理的な判断力を持って現場の責任を担うことができる。 （9）人の行動や心理に関する現象の中から、解決すべき課題を自ら発見することができ、それらに対する適切な仮説を生成することができる。 （10）データベースや図書館等を利用して必要な資料を収集することができ、また、その内容を適切に解釈して活用することができる。 （11）課題解決を行うために、適切な目的を設定し、目的を達成するために、戦略的に主体的に行動できる。 （12）知識と外国語を利用して実践できる。

3. 卒業後の進路

心理学の学びを活かした卸･小売、金融、製造業、建設業、サービス業等幅広い業界や公務員としての就職、大学院進学（臨床心理士の資格取得）等が期待される。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#psychology）

（概要）

1. 体系（構成）

(1) 心理学科の授業科目は、専攻科目･関連科目･共通科目から構成されている。

①専攻科目では、専門分野を深く学ぶ。

②関連科目では、専門分野の視野を広げるために、専門分野に関連した科目を学ぶ。

③共通科目では、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育てるために、キリスト教学、人文科学、社会科学、自然科学、スポーツ科学及び外国語を学ぶ。

2. 特色

(1) 基礎から専門への移行するバランスのとれたカリキュラム構成により、演習･論文に関する科目、社会調査や分析技法に関する専門的知識科目、専門科目のそれぞれが、1年次より順次基礎から開講され、学年があがるに従って、より高度な内容が学べるように、カリキュラムが組まれている。

(2) 幅広くバランスのとれたカリキュラム構成により、キリスト教の全人教育を基礎にして、心理学を中心に自然科学、人文科学、社会科学、スポーツ科学、等を幅広く学ぶ。

(3) グローバルな視点を取り入れたカリキュラム構成により、文化の違いによる心理学的知見の違いや普遍的な人間性について学ぶことができる。

(4) 多様な学生が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる、本人の実力を育てる教育を行う。

3. 具体的な教育内容

〔演習･卒業論文に関する科目〕

1年の演習では、大学で学ぶための基礎的スキルを獲得する。3・4年の演習では、履修した様々な心理学の科目から得た知識やスキルを用いて、研究を実施し、卒業研究としてまとめる力を獲得する。

〔研究法に関する科目〕

人間の心理や行動を科学的に分析するためのデータ収集、分析法についての知識を獲得する。

〔実験･実習に関する科目〕

調査、観察、実験、面接を用いて、人間の心理や行動を分析するデータ収集力やデータ分析力を獲得する。

〔基礎専門に関する科目〕

心理学の多様な領域を概観し、心理学という学問の概念を獲得する。

〔認知領域科目〕

人間が、日々周りの世界を見たり聞いたり、それをもとに感じたり記憶したり考えたりするしくみを理解する知識を獲得する。

〔教育･発達領域科目〕

人の精神や知能の発達や形成のプロセス、教育過程の様々な現象を理解する知識を獲得する。

〔社会･産業領域科目〕

社会や産業場面における人の行動を、他者との関係や置かれた状況との関わりから検討できる知識を獲得する。

〔臨床領域科目〕

心理的な悩みや問題を抱える人を理解･援助する理論や技法（カウンセリング、心理テス

ト）についての知識を獲得する。
〔文化･環境領域科目〕
　文化や環境が人間のものの見方や考え方、行動に与える影響について理解する知識を獲得する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#psychology）

（概要）
1．求める学生像
　心理学科は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程の編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識･意欲を備えた者を求める。
（1）大学での学修に必要な基礎学力を有している者。
（2）自分をとりまく諸世界及び人間について学ぶことに関心を持ち、それらに対する基礎的知識を有する者。
（3）将来、心理の知識を活かして社会に貢献する事に意欲を持ち、自らの課題を見いだせる者。
（4）対人関係の支援に必要なコミュニケーション能力を身に付けることに意欲的な者。
2．選抜方法
　心理学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。
（1）一般選抜（一般入試、英語４技能利用型一般入試、大学入学共通テスト利用入試（前期･後期）、一般･共通テスト併用型入試）
　高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。また、一般･共通テスト併用型入試では、合否判定に利用する科目として、大学入学共通テストから必ず数学または理科を採用することなど、心理学科において専門知識を修得するための理数的能力を有しているかについても併せて評価する。
（2）総合型選抜（総合型入試）
　総合型入試では、数学科目の履修や英語の資格･検定試験のスコアを出願資格に加えることにより、数学的思考力及び語学力を有する者を対象とする。受験者に講義に基づく試験により一次選考を行ったうえで、グループディスカッション及び個人面接を課し、出願時の学修計画書等を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性協調性を総合的・多面的に判定する。
（3）学校推薦型選抜（指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試）
　学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。入試では受験者に小論文と面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。
（4）その他の選抜（外国人入試、帰国生入試、国際バカロレア入試）
　多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接､帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより､受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。国際バカロレア入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

学部等名　国際文化学部国際文化学科

教育研究上の目的（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#sintercultural_studies）

（概要）
　国際文化学部は、人類が今までに生み出し発展させてきた古今東西の文化を、地域文化、比較文化及び表象文化の視点から歴史的・総合的に捉え、地域と世界、文化と芸術に関する専門的知識と国際的かつグローバルな視野を持つことによって、地域社会及び国際社会に貢献し、現代世界において活躍する職業人及び文化の継承・発展と新たな文化の創造をなしうる学者・芸術家などを育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#sintercultural_studies）

（概要）
1．卒業要件
　以下に掲げる修得する能力を身に付け、専攻科目から 78 単位以上、共通科目から 34 単位以上、専攻科目、関連科目及び共通科目から 16 単位以上、合計 128 単位以上を修得し、本学学則に定める在学期間を満たす者へ学士（国際文化）の学位を授与する。
2．修得する能力
（1）地域と世界、文化と芸術に関する専門的知識を修得している。
（2）グローバルな視野を身に付け、かつ主体的に判断し活躍できる。
（3）地域社会及び国際社会において貢献し、現代世界において活躍することができる。
（4）情報社会において適切な情報を処理できる。
3．卒業後の進路
　卸･小売り、マスコミ･情報、金融、運輸･旅行関連の各業界及び国際協力機関、中学校･高等学校の教員及び博物館･美術館の学芸員等への就職、更に国内･国外の大学院への進学が期待される。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#sintercultural_studies）

（概要）
1．体系（構成）
（1）国際文化学科の授業科目は、専攻科目･関連科目･共通科目から構成されている。
①専攻科目では、専門分野を深く学ぶ。
②関連科目では、専門分野の視野を広げるために、専門分野に関連した科目を学ぶ。
③共通科目では、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育てるために、キリスト教学、人文科学、社会科学、自然科学、スポーツ科学及び外国語を学ぶ。
（2）1 年次は、文化を普遍的に探究する方向性を持った科目群である文化論部門の各科目を履修することによって、広い視野を獲得する。また、必修科目の基礎演習で、大学における学修の基本を学び、各研究分野の概観を把握する。
（3）2 年次の必修科目である専門演習Ⅰでは、以下の 6 つのコースのいずれかに所属し、担当教員のもとでの本格的な演習において、専門的な指導を受ける。
①日本文化コース
②中国･アジア文化コース
③アメリカ･太平洋文化コース
④ヨーロッパ･地中海文化コース
⑤比較文化コース
⑥表象文化コース
（4）3 年次の必修科目である専門演習Ⅱでは、専門演習Ⅰで身に付けた基礎力を更に展開、発展させ、4 年次の卒業論文作成の準備を行う。
（5）4 年次の必修科目である卒論演習では、担当教員の指導のもと、個人のテーマに従って関係文献を調査、読解し、また共通のテーマに従ってクラスでの討議を継続し、その成果を卒業論文に集約する。
2．特色
（1）地域及び文化、芸術に関する専門知識を習得するための多様な専攻科目を履修できる。
（2）外国語を重視し、幅広い共通科目（人文、社会、自然）を履修できる。

(3) 国際社会･グローバル社会で活躍できる人材を育成するべく受講者の意欲と価値観に対応した幅広い専門の演習を選択履修できる。
(4) 多様な学生が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できる教育を行う。

3. 具体的な教育内容

〔演習･卒業論文科目〕

基礎演習では大学での学修やプレゼンテーションの仕方を学び､2･3 年次の専門演習Ⅰ･Ⅱにおいては、各自がゼミに所属し、資料収集の方法やプレゼンテーション力を高める。4 年次の卒論演習では、各自の研究テーマに従って文献資料の収集、現地調査等を行い、そこで得られた成果を卒業論文に集約する。

〔文化論部門科目〕

文化基礎論では、教員が特定のトピックを取り上げて文化理解の基礎に関する講義を行う。また、 文化のダイナミズムでは、複数名の担当者が 1 つの大きなテーマをめぐってリレー形式で講義していく。自由に選択することができ、広い視野を獲得することが可能となる。

〔日本文化科目〕

グローバル化の時代にあって、真の異文化理解を図るためには、自国の文化や社会及び歴史についての理解を深めることが大切である。先史から近現代にいたる日本の歴史を学ぶとともに、文学やアニメーション等を通して現代日本文化への理解を深める。

〔中国･アジア文化科目〕

中国の歴史、言語、文化を中心に、日本や東アジア諸社会の文化との関係性も視野に入れながら、文学、思想、民族、歴史等を学ぶ。また、グローバルに展開する現代世界における中国語文化圏の広がりや展開について学びを深める。

〔アメリカ･太平洋文化科目〕

多民族国家アメリカの歴史、宗教、思想、多文化主義、外交等を多面的に学び、理解を深める。また、19 世紀以降、相互の交流を深める太平洋諸地域、アジア社会等との諸関係について、グローバルな視野に立って考察する。

〔ヨーロッパ･地中海文化科目〕

ヨーロッパや地中海地域を中心に、神学、哲学、思想、歴史等を学ぶ。考古学、文献学、ドイツ文学、オペラ等への理解を通して、ヨーロッパから世界に視野を広げ、グローバル化のプロセスにおけるヨーロッパ･地中海地域への理解を深める。

〔比較文化科目〕

現代世界において文化はダイナミックかつ多様な展開をみせている。ヨーロッパを中心にそれらの文化のおおもととなる思想や文明のありかたを概観するとともに、比較文化的視野に立ってアジア太平洋地域の文化のありようについて理解を深める。

〔表象文化科目〕

グローバルな視野に立って、絵画、建築、写真、映画、マンガ、アニメーション、音楽、舞踏等、人間の五感によって表象された対象すべてを「文化」として取り扱い、それを、言語を使って論理的に分析･解釈･再表現したり、思想的、経済的、政治的にアプローチしていく。

〔専門外国語科目〕

本学部独自の専門的な外国語科目で、英語、中国語、韓国語、ドイツ語、フランス語、イタリア語等が準備されている。研究資料の講読等に必要な読解を中心とした高度な専門的語学能力の養成を目指している。

〔学部共通科目〕

上記の各文化コースで学ぶそれぞれの科目に関連した思想、歴史、文化等に関連する科目を配置し、文化や社会を理解するための手助けをする。また、本学部独自の社会調査士資格取得プログラムのための基礎的な科目を準備している。

〔自由研究科目〕

海外における外国語現地学習を行いながら、現地の文化に触れ、そこでの学びを通して、より高度な語学力習得と異文化の多面的理解につとめる。また、各自の関心に従って、文化や社会に関わる研究テーマをたてて自由研究を行い、探求心を養う。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/policy.html#sintercultural_studies）
（概要） 1. 求める学生像 国際文化学科は、卒業認定･学位授与の方針（ディプロマ･ポリシー）及び教育課程の編成･実施方針（カリキュラム･ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識･技能や能力、目的意識･意欲を備えた者を求める。 （1）大学での学修に必要な基礎学力を有している者。 （2）広く文化、社会、歴史について学ぶ積極的な意欲を持ち、その獲得のための基礎知識並びに一定の学力がある者。 （3）国際的関心を有し、思索に富み、異文化理解に積極的に関わることが出来る者。 （4）価値観の多様な社会の中にあって将来も自己を失わずに積極的に活躍できる者。 2. 選抜方法 国際文化学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。 （1）一般選抜（一般入試、大学入学共通テスト利用入試（前期･後期）、一般･共通テスト併用型入試） 高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。 （2）学校推薦型選抜（指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試） 学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。指定校推薦入試では、国語の評定平均値を出願資格に加えることにより、国際文化学科において専門知識を修得するための国語力を有する者を評価する。入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。 （3）その他の選抜（国際バカロレア入試、外国人入試、帰国生入試） 多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接､帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより､受験者の意欲･関心、理解力･思考力･表現力を総合的に評価して判定する。国際バカロレア入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.seinan-gu.ac.jp/introduction/public_information/seinan_basic.html#8759

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
－	3 人	－					3 人
神学部	－	5 人	2 人	0 人	0 人	0 人	7 人
外国語学部	－	28 人	5 人	1 人	5 人	0 人	39 人
商学部	－	20 人	7 人	1 人	1 人	0 人	29 人
経済学部	－	21 人	6 人	1 人	0 人	0 人	28 人
法学部	－	24 人	10 人	1 人	1 人	0 人	36 人
人間科学部	－	27 人	17 人	3 人	0 人	0 人	47 人
国際文化学部	－	15 人	8 人	2 人	3 人	0 人	28 人

b.教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	398 人	398 人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：https://seis-trinf.seinan-gu.ac.jp/

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

各学部レベルで個別にFD活動を推進するとともに、全学部長で構成する全学FD推進点検評価委員会（下部組織として、授業評価検討委員会）を設置し、大学全体の枠組みとしても、授業内容や方法を改善、向上させるための組織的な活動を進めている。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a.入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員(a)	入学者数(b)	b/a	収容定員(c)	在学生数(d)	d/c	編入学定員	編入学者数
神学部	10 人	10 人	100.0%	40 人	45 人	112.5%	若干名	0 人
文学部	0 人	0 人	0%	300 人	364 人	121.3%	若干名	0 人
外国語学部	300 人	332 人	110.7%	900 人	902 人	100.2%	若干名	0 人
商学部	360 人	381 人	105.8%	1440 人	1561 人	108.4%	若干名	1 人
経済学部	360 人	373 人	103.6%	1440 人	1494 人	103.8%	若干名	0 人
法学部	410 人	429 人	104.6%	1640 人	1700 人	103.7%	若干名	0 人
人間科学部	335 人	357 人	106.6%	1335 人	1387 人	103.9%	若干名	2 人
国際文化学部	180 人	179 人	99.4%	720 人	763 人	106.0%	若干名	0 人
合計	1955 人	2061 人	105.4%	7815 人	8216 人	105.1%	若干名	3 人

（備考）2022 年 4 月入学者を対象に回答。

b.卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
神学部	13 人 （100%）	2 人 （15.4%）	8 人 （61.5%）	3 人 （23.1%）
文学部	309 人 （100%）	11 人 （ 3.6%）	241 人 （78.0%）	57 人 （18.4%）
商学部	374 人 （100%）	1 人 （ 0.2%）	308 人 （82.4%）	65 人 （17.4%）
経済学部	373 人 （100%）	0 人 （ 0.0%）	311 人 （83.4%）	62 人 （16.6%）
法学部	433 人 （100%）	11 人 （ 2.5%）	345 人 （79.7%）	77 人 （17.8%）
人間科学部	321 人 （100%）	9 人 （ 2.8%）	271 人 （84.4%）	41 人 （12.8%）
国際文化学部	181 人 （100%）	6 人 （ 3.3%）	149 人 （82.3%）	26 人 （14.4%）
合計	2004 人 （100%）	40 人 （ 2.0%）	1633 人 （81.5%）	331 人 （16.5%）

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）
(株)福岡銀行、(株)西日本シティ銀行、(株)楽天銀行、明治安田生命(相)、福岡県福岡市職員【上級】等

（備考）

c.修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
神学部	11 人 (100%)	9 人 (81.8%)	1 人 (9.1%)	1 人 (9.1%)	0 人 (0%)
文学部	310 人 (100%)	251 人 (81.0%)	46 人 (14.8%)	13 人 (4.2%)	0 人 (0%)
商学部	382 人 (100%)	325 人 (85.1%)	42 人 (11.0%)	13 人 (3.4%)	2 人 (0.5%)
経済学部	386 人 (100%)	324 人 (83.9%)	50 人 (13.0%)	12 人 (3.1%)	0 人 (0%)
法学部	436 人 (100%)	371 人 (85.1%)	46 人 (10.6%)	18 人 (4.1%)	1 人 (0.2%)
人間科学部	340 人 (100%)	299 人 (87.9%)	34 人 (10.0%)	7 人 (2.1%)	0 人 (0%)
国際文化学部	194 人 (100%)	162 人 (83.5%)	29 人 (14.9%)	3 人 (1.5%)	0 人 (0%)
合計	2059 人 (100%)	1741 人 (84.6%)	248 人 (12.0%)	67 人 (3.3%)	3 人 (0.1%)
（備考）2018 年 4 月入学者を対象に回答。その他は転部・転科した学生を計上。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）

Ⅰ．授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画

※シラバスにおいて、以下の項目を記載
１．授業の到達目標
２．授業の概要
３．事前・事後学習、時間等
４．授業計画（各回の授業内容）
５．教科書・テキスト
６．参考書等
７．課題の種類・内容
８．課題に対するフィードバックの方法
９．成績評価の方法・基準
１０．使用言語
１１．履修上の注意

Ⅱ．授業科目
各学部・学科のカリキュラム一覧
https://www.seinan-gu.ac.jp/faculty_graduate/curriculum/curriculum/

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）
【様式第２号の３より再掲】

《学修の成果に係る評価》
Ⅰ．成績評価の方法（履修規程 第５章 第32、34条）
成績は、試験（学期末試験、臨時の試験）、研究報告、論文などにより定める。なお、試験及び評価の方法や基準等は、講義要綱（シラバス）に定める。

Ⅱ．成績評価の基準（履修規程 第５章別表（第35条及び第35条の２関係）成績評価基準）
成績評語は、次の基準による。

評語	GP	評語の意味	判定	素点（百点満点での目安）
S	4	卓越水準	合格	100点より90点まで
A	3	目標到達水準	合格	89点より80点まで
B	2	到達途上水準	合格	79点より70点まで
C	1	単位認定下限水準	合格	69点より60点まで
D	0	単位不認定水準	不合格	59点以下
X	0	失格	不合格	
T		単位認定	合格	
P		合格	合格	
F		不合格	不合格	

備考
1　２段階評定科目では、P(合格)、F(不合格)を使用する。
2　本表は、2020年度在学生全員に適用する。ただし、2019年度以前の成績については、なお従前の例による。

Ⅲ．厳正かつ適切な単位授与、履修認定
シラバスに定める授業の到達目標及びテーマを踏まえ、同じく明示する成績評価の方法・基準（方法毎の割合）に沿って、客観的に判定している。

《卒業又は修了の認定に当たっての基準》
Ⅰ．卒業の認定に関する方針の具体的な内容
神学部、文学部、外国語学部、商学部、経済学部、法学部、人間科学部、国際文化学部のそれぞれにてディプロマ・ポリシーを策定し、卒業要件と修得する能力を明示している。

Ⅱ．卒業の認定に関する方針の適切な実施
学部・学科によって定められた「修得する能力」を身に付け、専攻科目、関連科目、共通科目から所定の単位以上を修得し、学則に定める在学期間を満たす者へ学士の学位を授与している。
2 年次および 3 年次終了時点にて一定の修得単位の状況に鑑みた判定を実施するとともに、4年次4月の段階で卒業見込判定を、最終的には4年次3月上旬に卒業判定を実施している。

※以下は、2022 年度 1 年次生の情報（同一学科内の専攻やコース別に履修単位の登録上限が設定されている場合には、いずれか高い単位数を掲載）

学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
神学部	神学科	128単位	有	48単位
文学部	英文学科	128単位	有	46単位
	外国語学科	128単位	有	48単位

外国語学部	外国語学科	124 単位	有	42 単位
商学部	商学科	128 単位	有	44 単位
	経営学科	128 単位	有	44 単位
経済学部	経済学科	128 単位	有	48 単位
	国際経済学科	128 単位	有	48 単位
法学部	法律学科	130 単位	有	48 単位
	国際関係法学科	130 単位	有	48 単位
人間科学部	児童教育学科	131 単位	有	50 単位
	社会福祉学科	124 単位	有	49 単位
	心理学科	124 単位	有	40 単位
国際文化学部	国際文化学科	128 単位	有	44 単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：西南学院大学ホームページ
https://www.seinan-gu.ac.jp/introduction/facility/campusmap.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
全学部学科	－	750,000 円	200,000 円	210,000 円	全学部学科同額

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a.学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 以下の「修学支援の方針」を踏まえ、関係部署が連携し、修学に関する相談体制を整備して、相談・指導に取り組むとともに、成績の状況及び学籍の異動状況を把握・分析し、適切な指導対応を行っている。 【参考】 「修学支援の方針」 (https://www.seinan-gu.ac.jp/shared/pdf/basic_policy/gakuseishien_houshin.pdf) 「学生サポート」 (https://www.seinan-gu.ac.jp/campuslife/support/supportlife.html)
b.進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 低学年次からの職業観の醸成等を目的としたキャリア形成支援プログラム、主に３年生以上を対象とした各種就職講座を実施している他、キャリアアドバイザーによる個別指導等も行っている。
c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要）定期健康診断において、持病や障がい、心身の不調や相談希望者を早期に把握し支援するために保健師面接を行い、カウンセラーによるメンタルヘルス面接や学医相談を実施している。また、保健管理室では禁煙や適性飲酒等の予防・啓発活動を行っている。コロナ禍においては、定期健康診断での保健師面接を Web による保健調査に変えて行い、保健師による健康相談、カウンセラーによるメンタルヘルス面接や学医面接を実施している。また、保健管理室及び学生相談室においては、個別相談に加えて心身の健康に関する情報提供やセミナーなどの予防・啓発活動を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：西南学院大学ホームページ https://www.seinan-gu.ac.jp/

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F140310110703
学校名	西南学院大学
設置者名	学校法人西南学院

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		752人	728人	786人
内訳	第Ⅰ区分	436人	443人	
	第Ⅱ区分	194人	198人	
	第Ⅲ区分	122人	87人	
家計急変による支援対象者（年間）				19人
合計（年間）				805人
（備考）				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第１号、第２号、第３号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—		
修得単位数が標準単位数の５割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の５割以下）	—		
出席率が５割以下その他学修意欲が著しく低い状況	—		
「警告」の区分に連続して該当	80人		
計	88人		
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	—	前半期		後半期	

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—
３月以上の停学	0人
年間計	—
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の６割以下（単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の６割以下）	—		
ＧＰＡ等が下位４分の１	121人		
出席率が８割以下その他学修意欲が低い状況	—		
計	142人		
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。